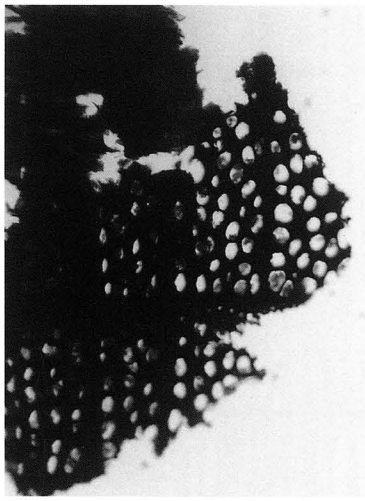
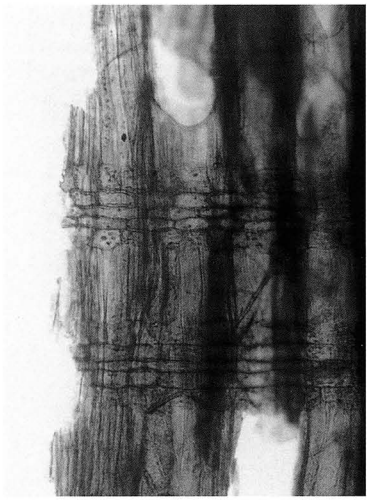
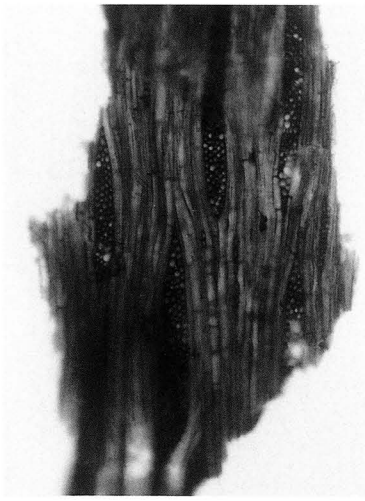


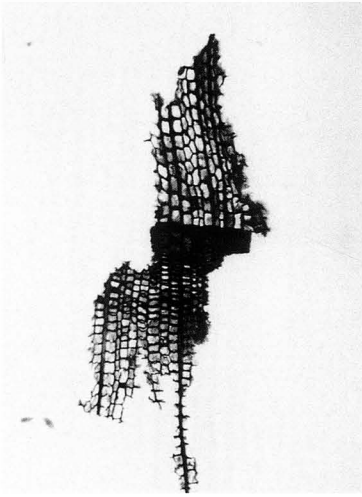
木口面　30倍
No.160　漆器皿　ブナ



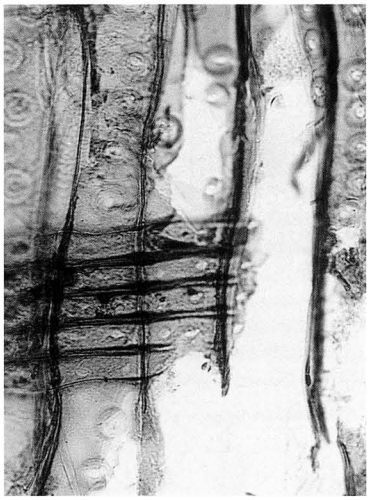
柾目面　100倍



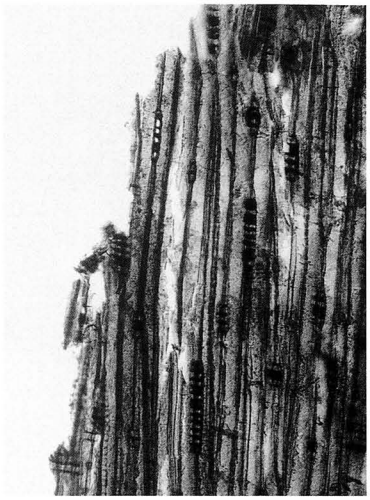
板目面　50倍



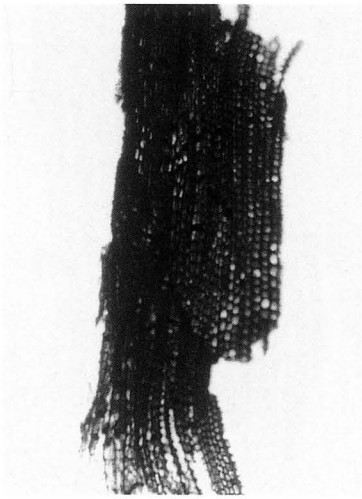
木口面　30倍
No.161　下駄　スギ



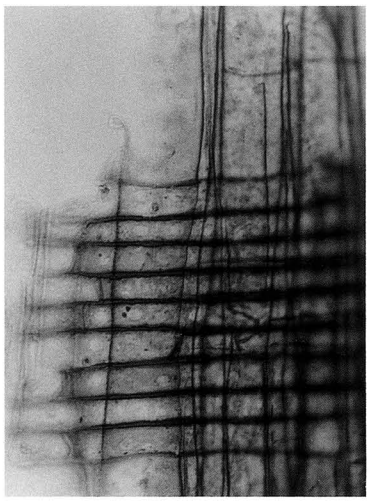
柾目面　200倍



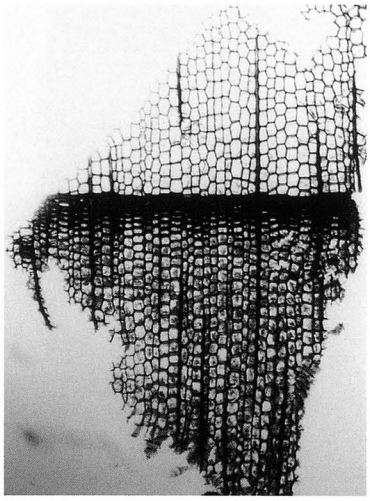
板目面　50倍



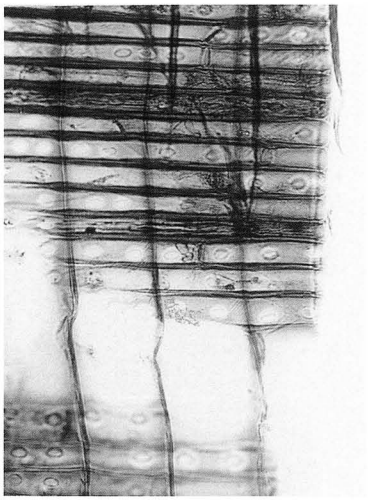
木口面　30倍
No.162　下駄　スギ



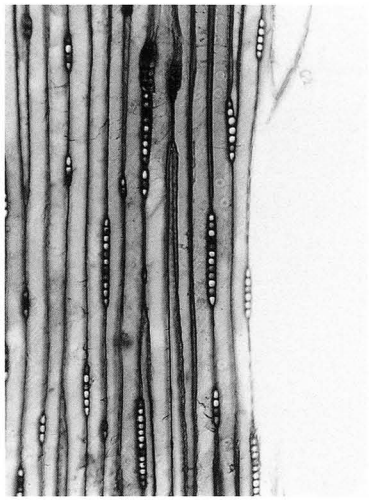
柾目面　200倍



木口面　30倍

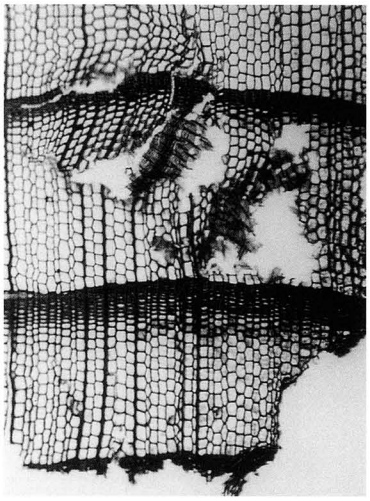


柾目面　200倍

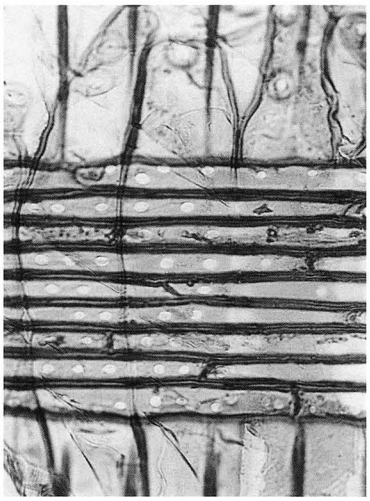


板目面　50倍

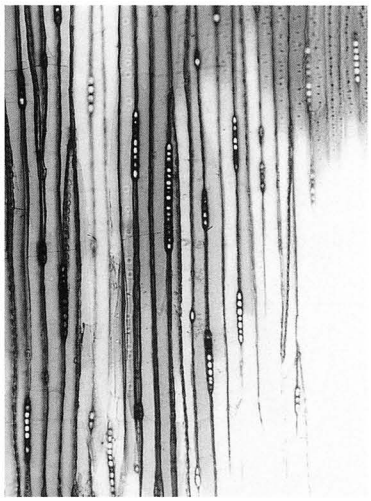
No. 163　曲物底　スギ



木口面　30倍

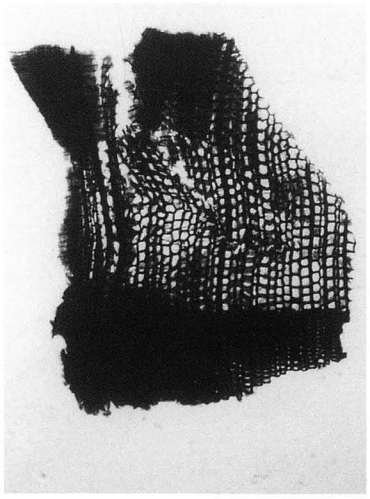


柾目面　200倍

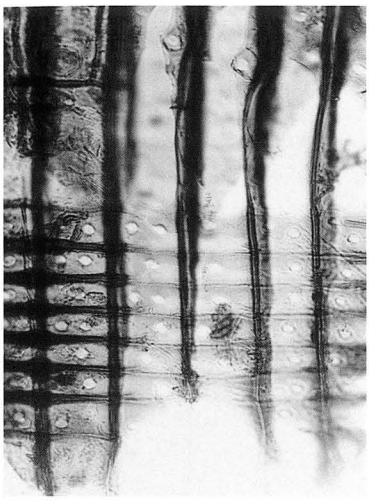


板目面　50倍

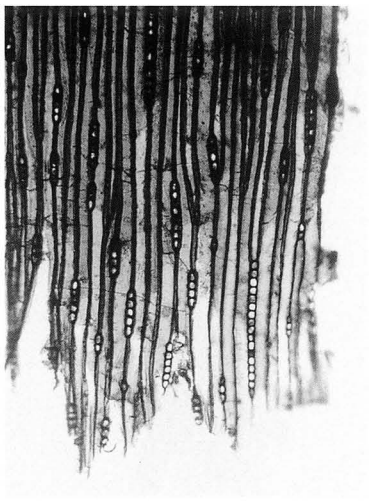
No. 167　曲物底　スギ



木口面　30倍

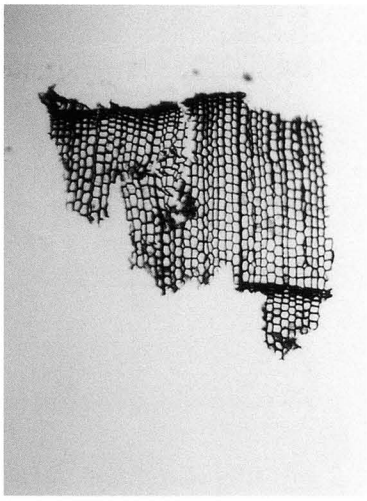


柾目面　200倍

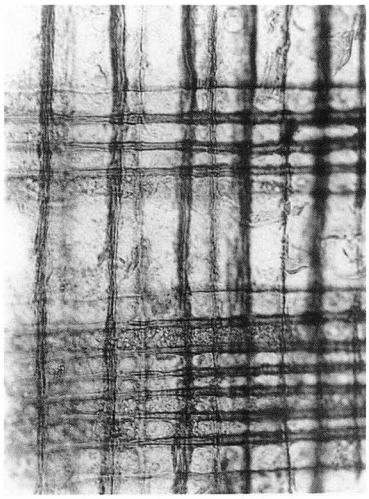


板目面　50倍

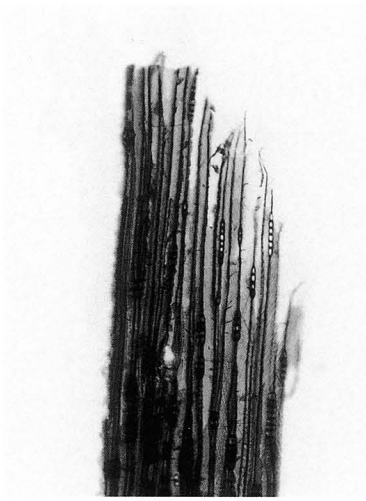
No. 168　へら　スギ



木口面　30倍

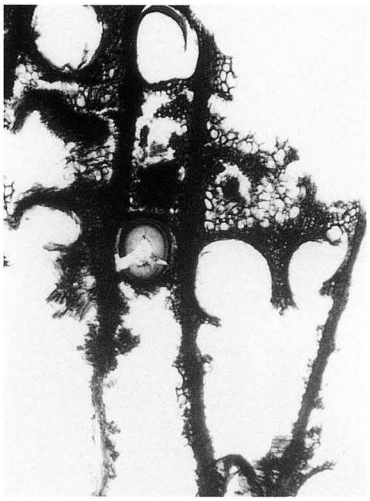


柾目面　200倍

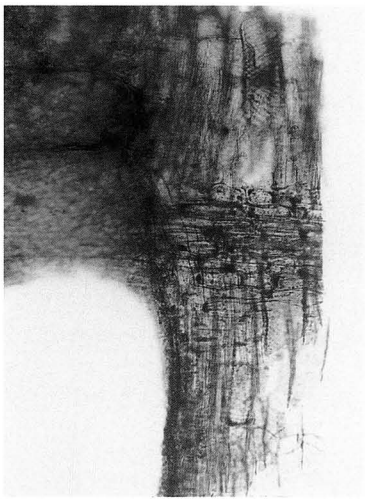


板目面　50倍

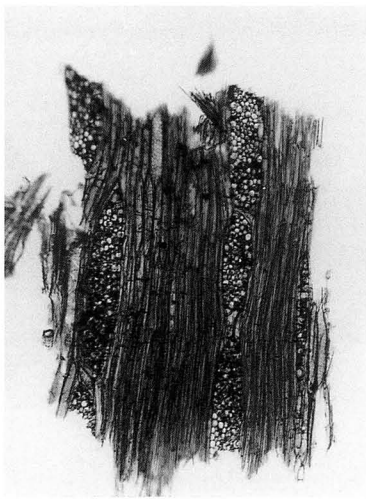
No.175　木蓋　ヒノキ



木口面　30倍



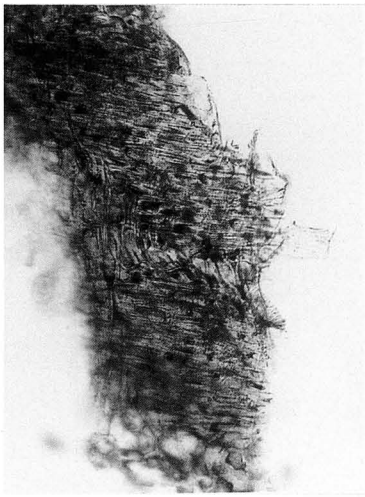
柾目面　100倍



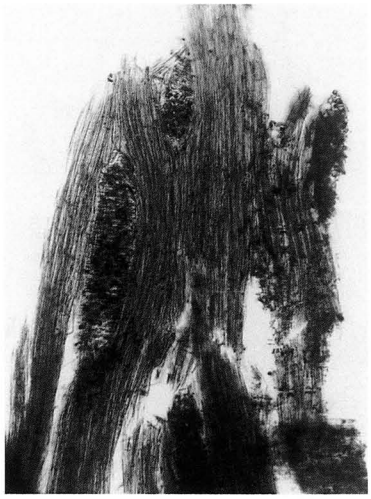
板目面　50倍

No.188　漆器椀　ケヤキ

木口面　30倍

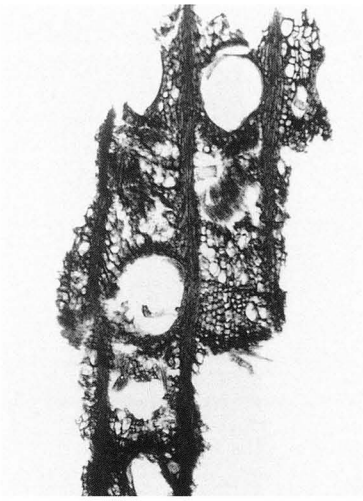


柾目面　100倍

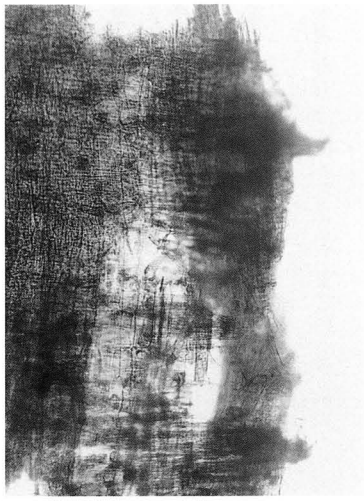


板目面　50倍

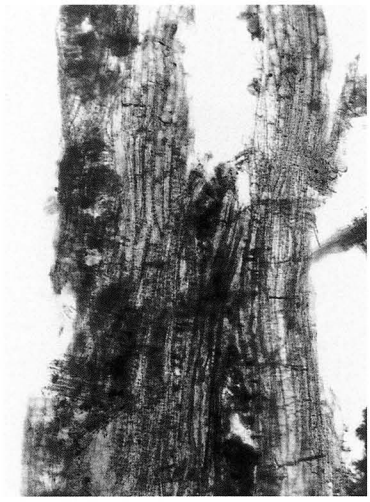
No.189　漆器椀　ケヤキ



木口面　30倍

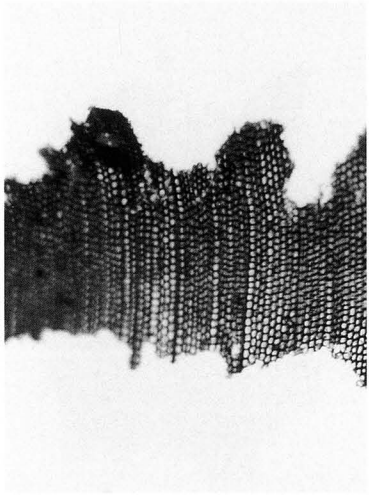


柾目面　100倍



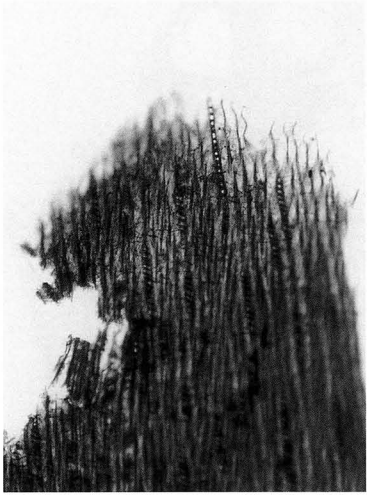
板目面　50倍

No.190　漆器椀　ケヤキ



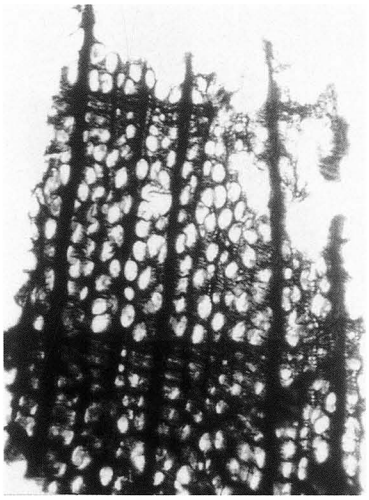
木口面　30倍

柾目面　200倍



板目面　50倍

No.201　漆器蓋　ヒノキ科

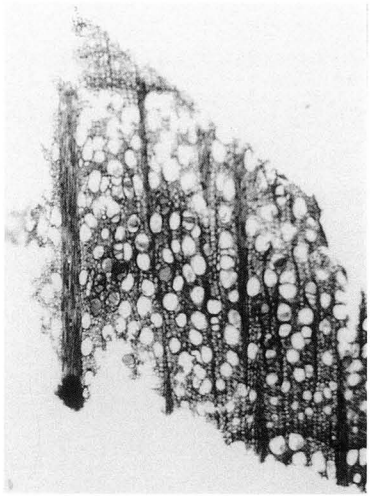


木口面　30倍

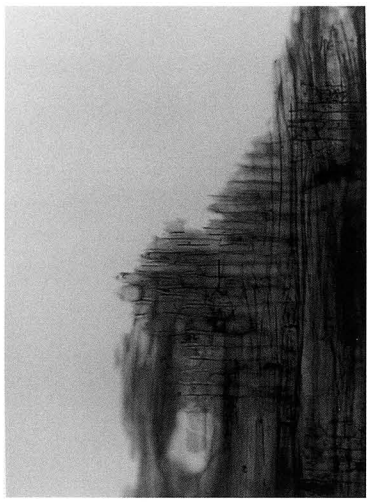
柾目面　100倍

板目面　50倍

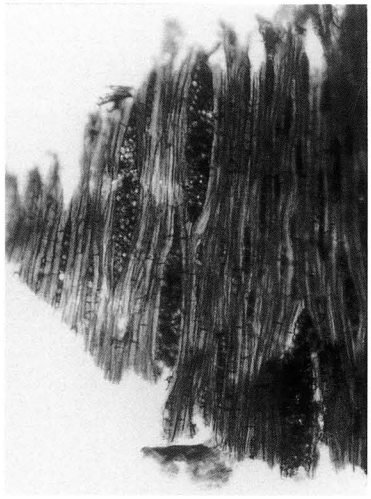
No.202　漆器椀　ブナ



木口面　30倍

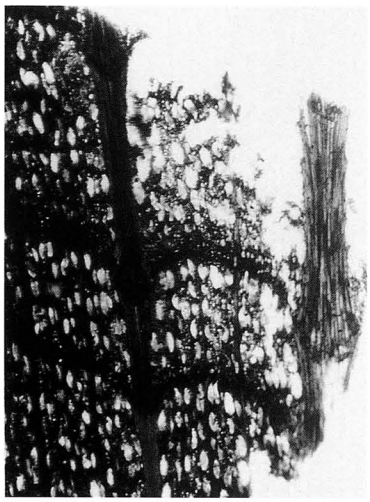


柾目面　100倍

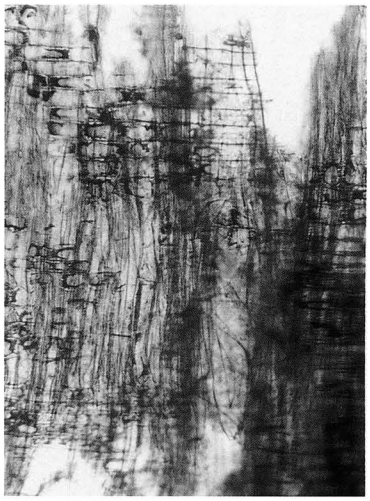


板目面　50倍

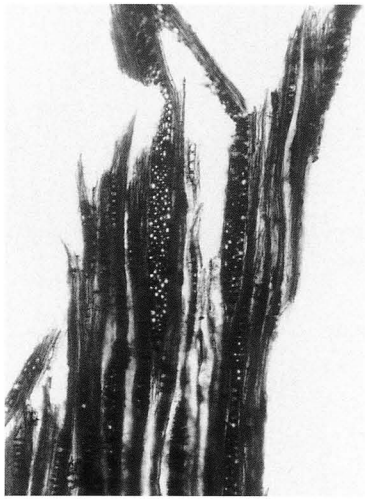
No. 203　漆器椀　ブナ



木口面　30倍

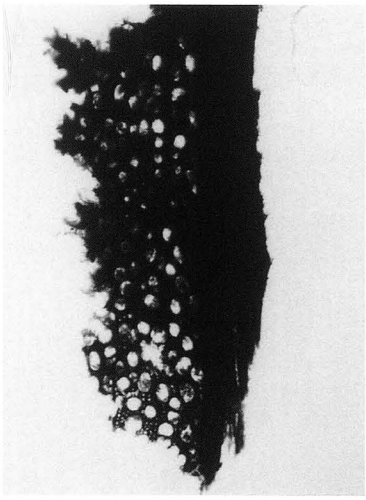


柾目面　100倍

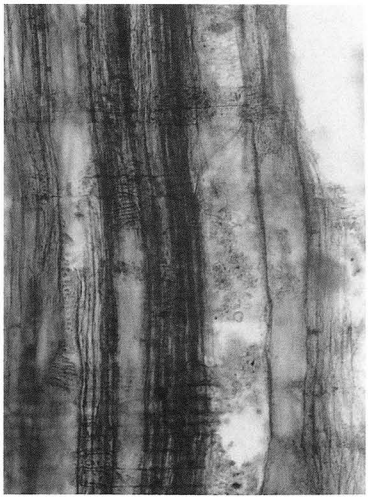


板目面　50倍

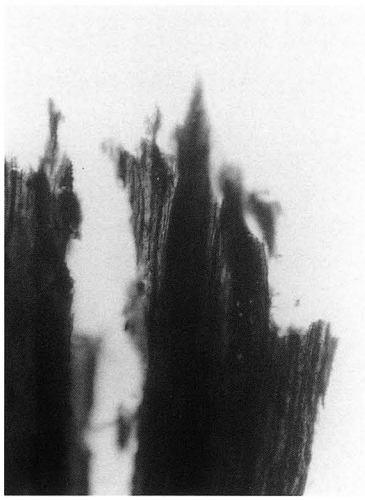
No. 204　漆器椀　ブナ



木口面　30倍

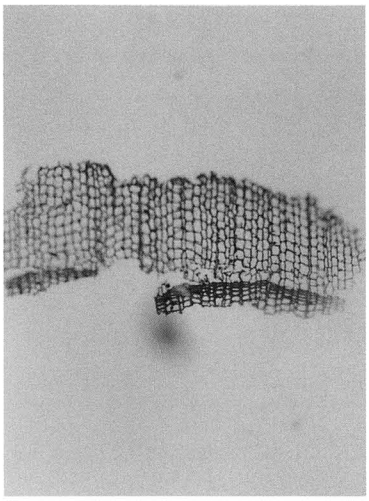


柾目面　100倍

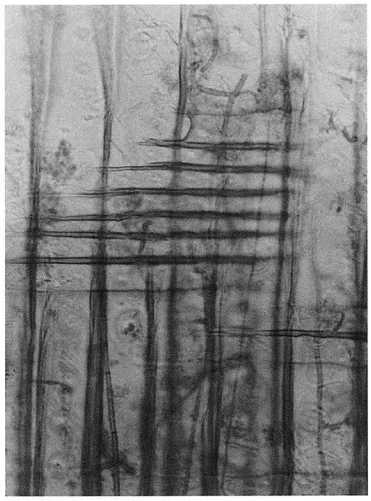


板目面　50倍

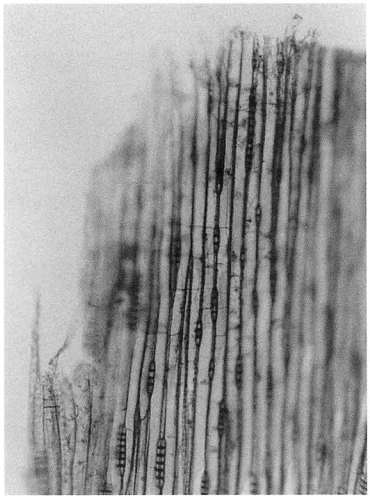
No. 205　漆器椀　ブナ



木口面　30倍

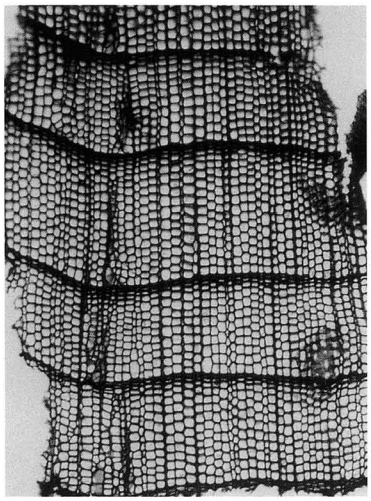


柾目面　200倍

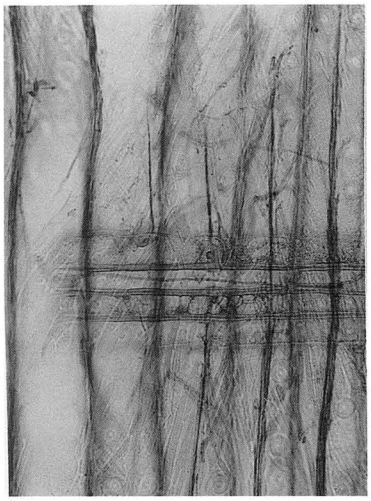


板目面　50倍

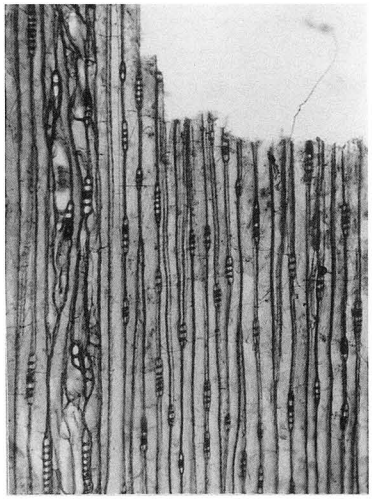
№ 211-1　曲物（底板）　ヒノキ



木口面　30倍

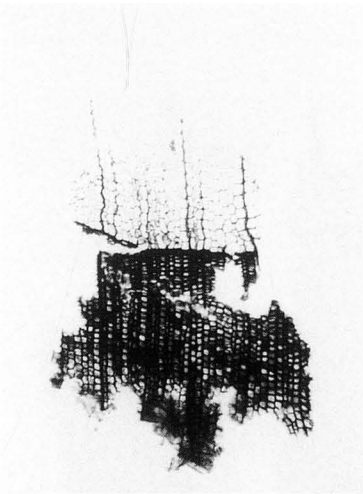


柾目面　200倍

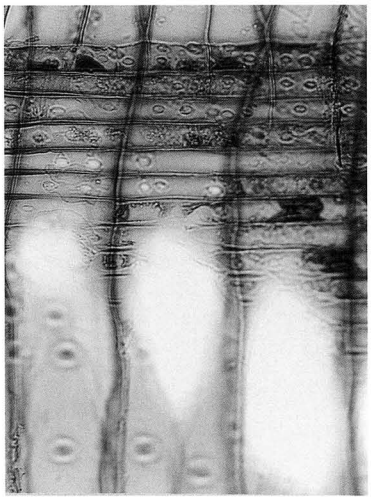


板目面　50倍

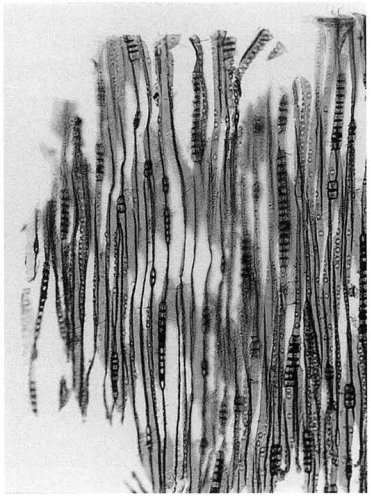
№ 211-2　曲物（側板）　ヒノキ



木口面　30倍

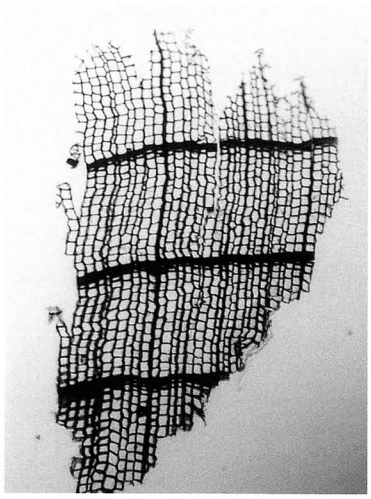


柾目面　200倍

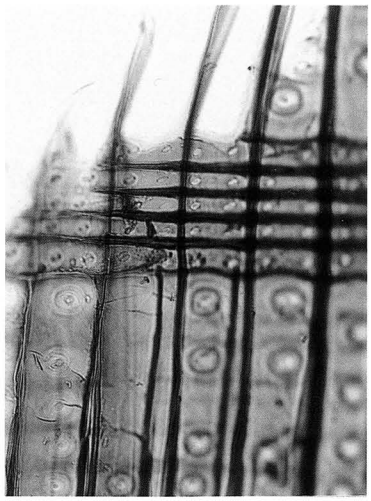


板目面　50倍

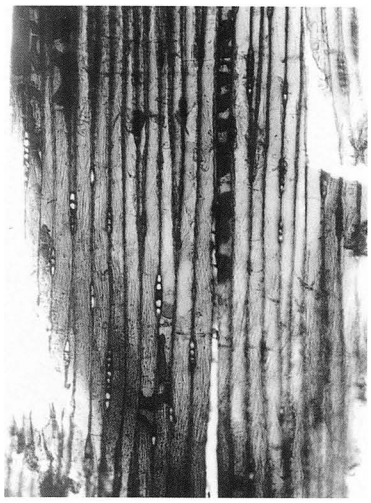
№ 212　円盤状　スギ



木口面　30倍

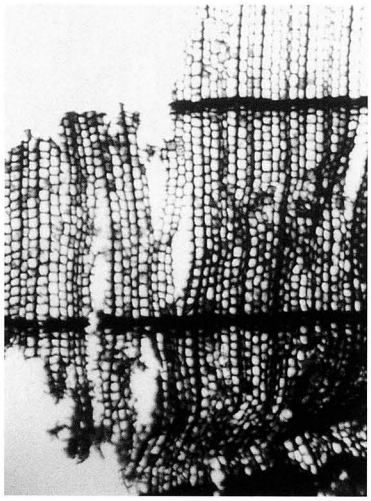


柾目面　200倍



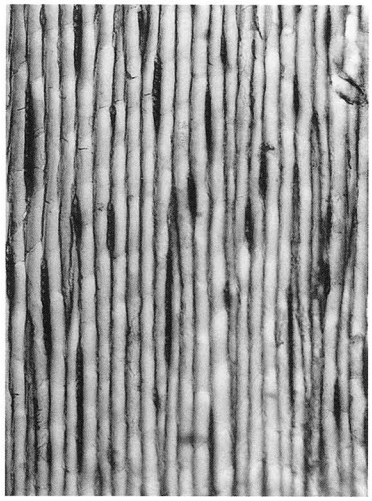
板目面　50倍

№213　板　ヒノキ



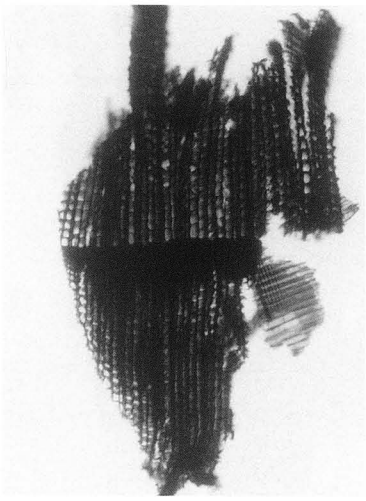
木口面　30倍

柾目面　200倍

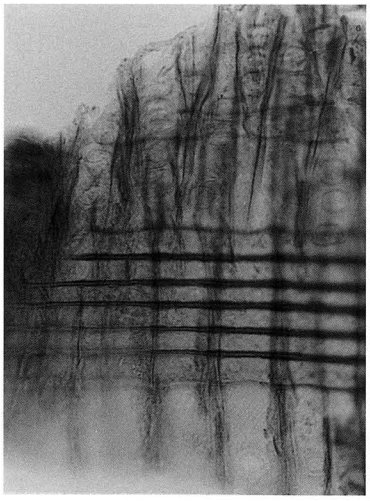


板目面　50倍

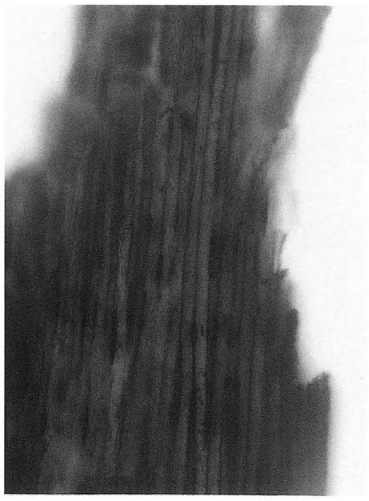
№214　円盤状　ヒノキ



木口面　30倍

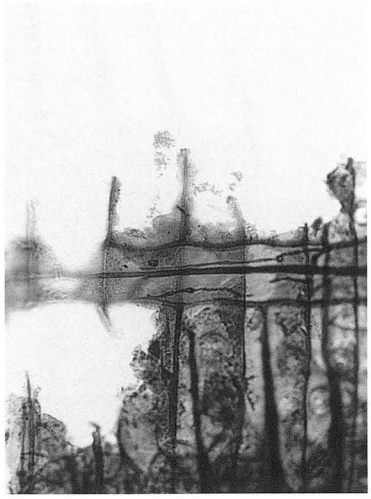


柾目面　200倍



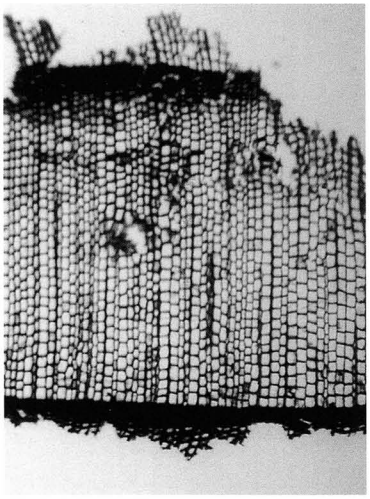
板目面　50倍

№215　底板　スギ

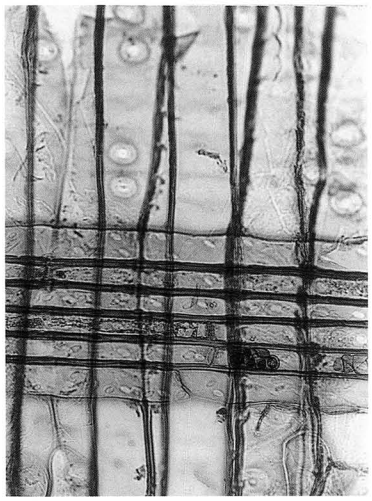


柾目面　200倍

No.216　棒状　ヒノキ科



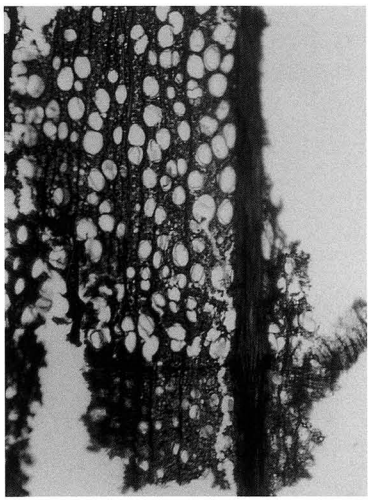
木口面　30倍



柾目面　200倍

板目面　50倍

No.217　板状　ヒノキ

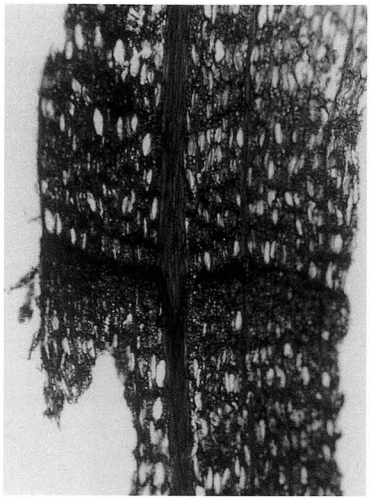


木口面　30倍

柾目面　100倍

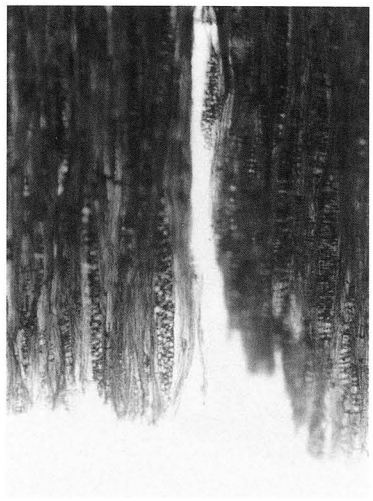
板目面　50倍

No.218-1　木臼　ブナ



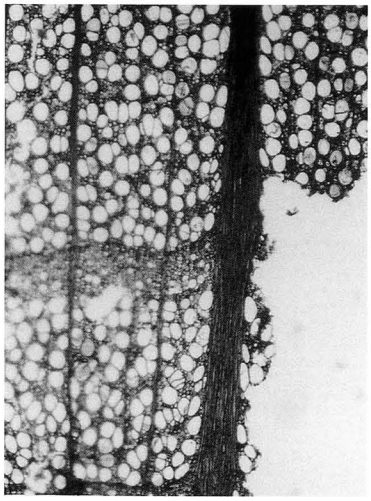
木口面　30倍

柾目面　100倍

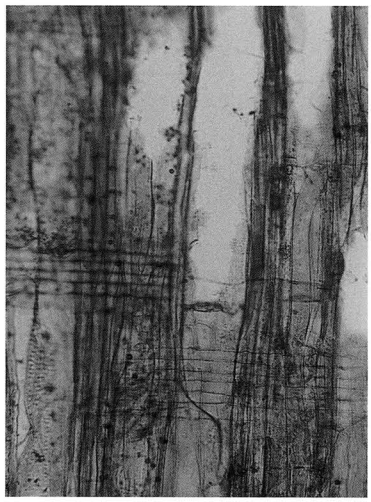


板目面　50倍

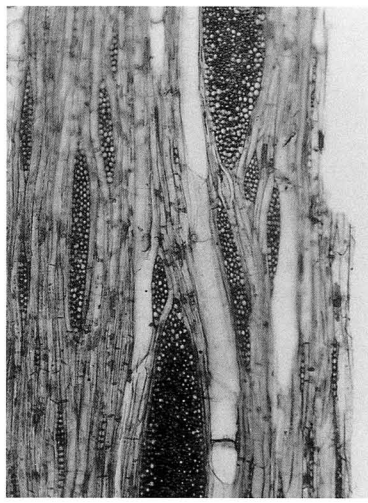
№218-2　木臼　ブナ



木口面　30倍

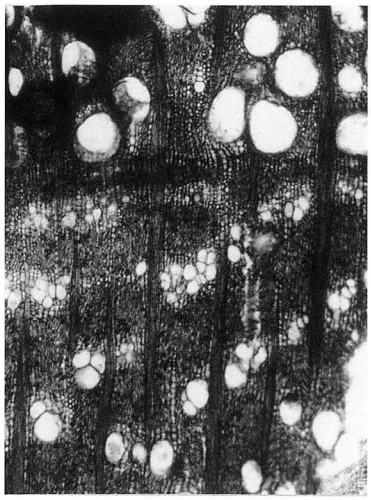


柾目面　100倍

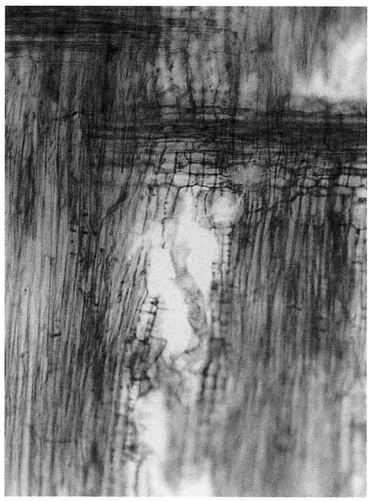


板目面　50倍

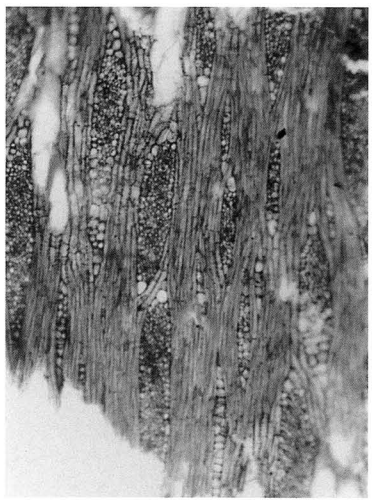
№219　木臼　ブナ



木口面　30倍

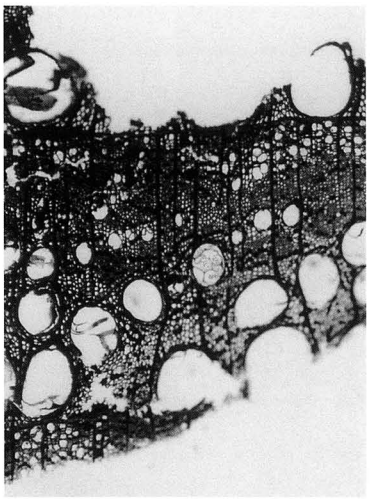


柾目面　100倍

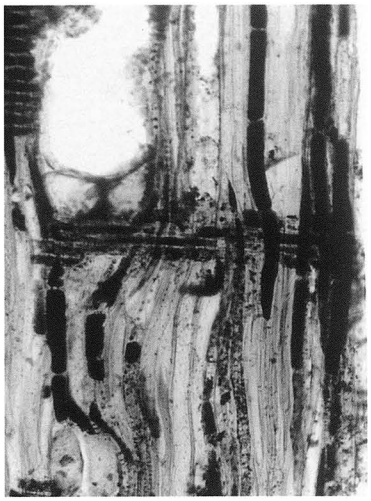


板目面　50倍

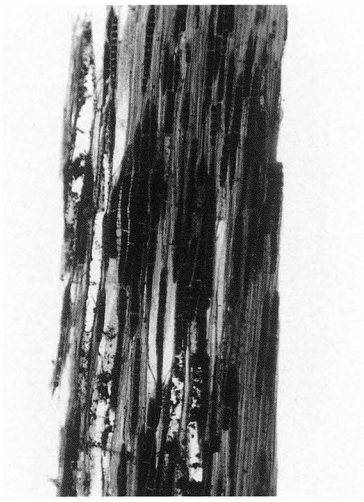
№220　柱　エノキ



木口面　30倍



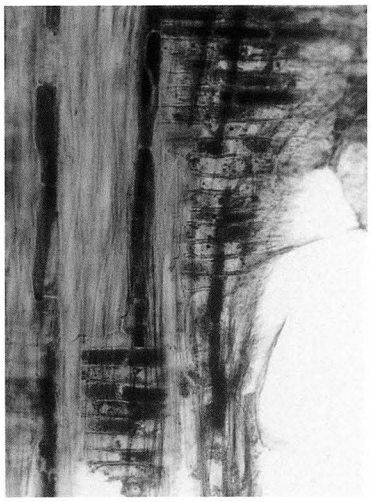
柾目面　100倍



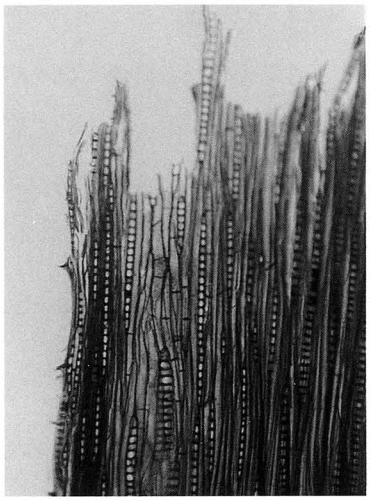
板目面　50倍

No.221　柱　クリ

木口面　30倍

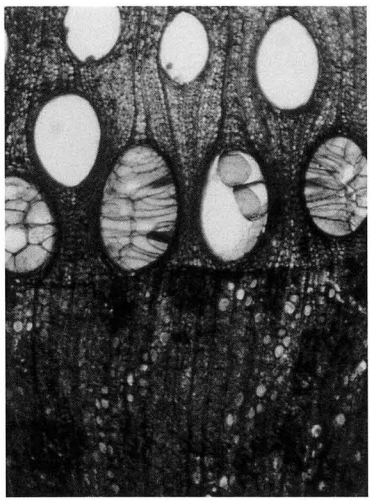


柾目面　100倍

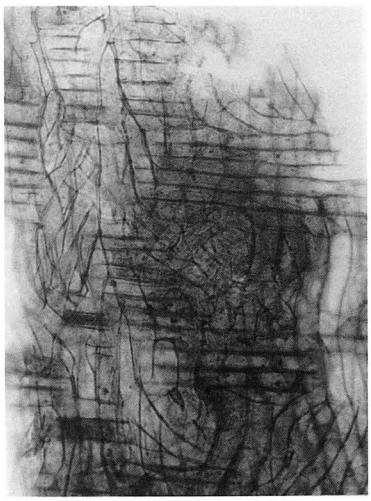


板目面　50倍

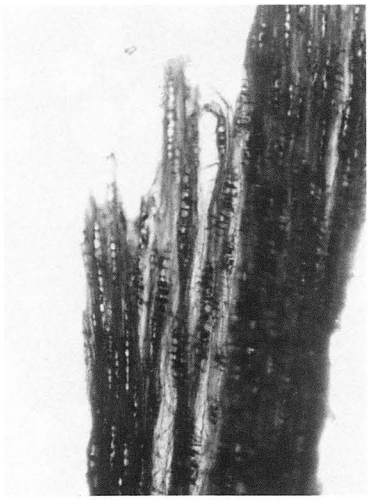
No.222　柱　クリ



木口面　30倍



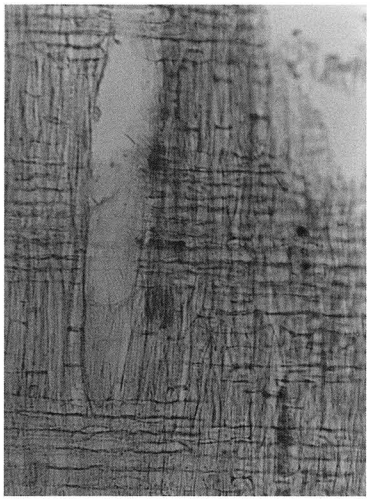
柾目面　100倍



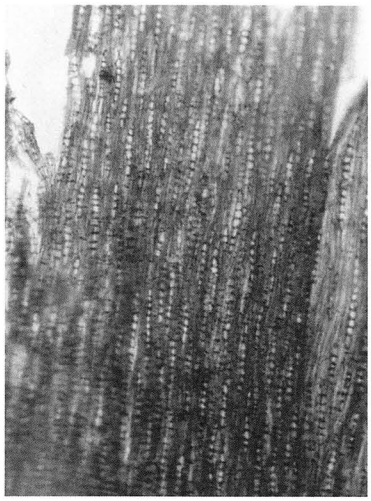
板目面　50倍

No.223　柱　クリ

木口面　30倍



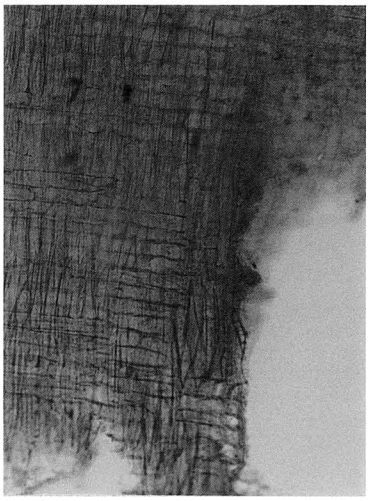
柾目面　100倍



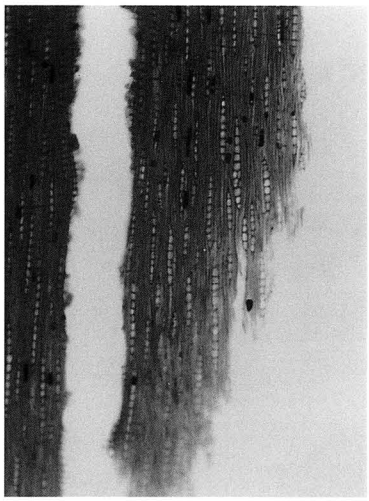
板目面　50倍

No.224　柱　クリ

木口面　30倍



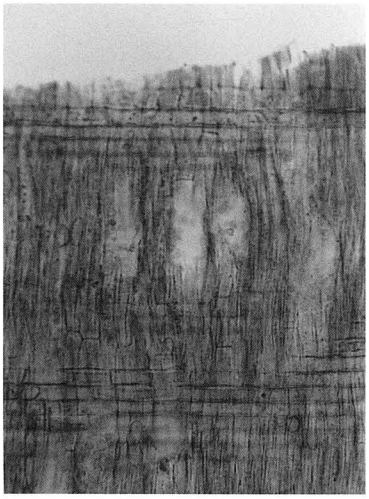
柾目面　100倍



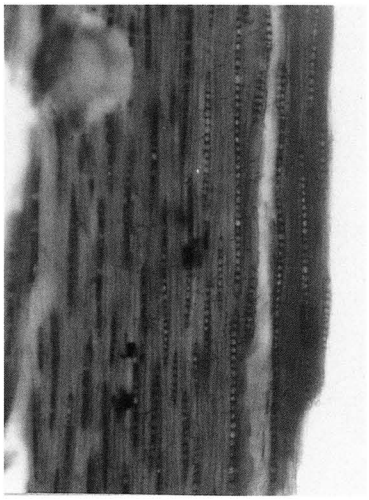
板目面　50倍

No.225　柱　クリ

木口面　30倍

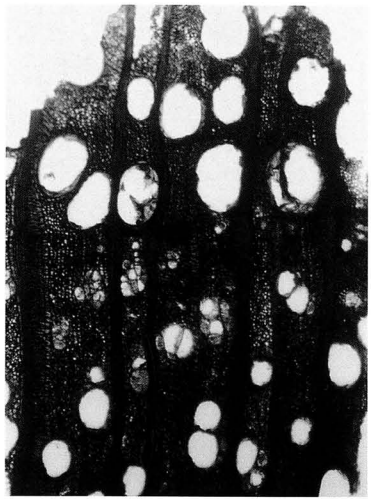


柾目面　100倍

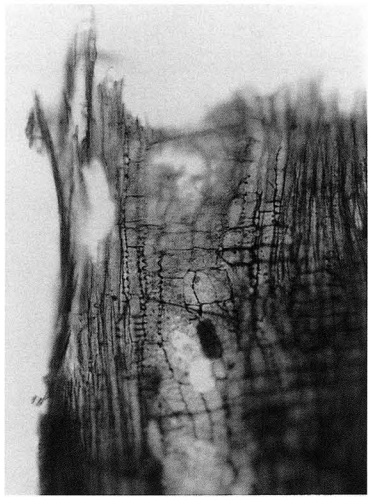


板目面　50倍

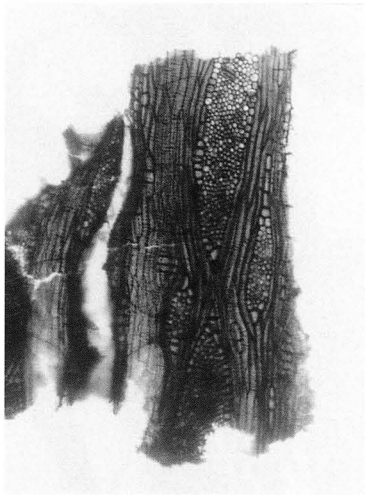
No.226　柱　クリ



木口面　30倍

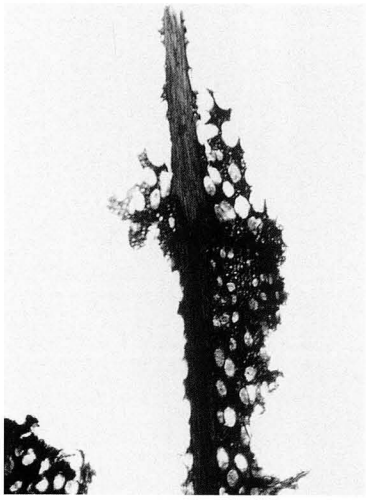


柾目面　100倍



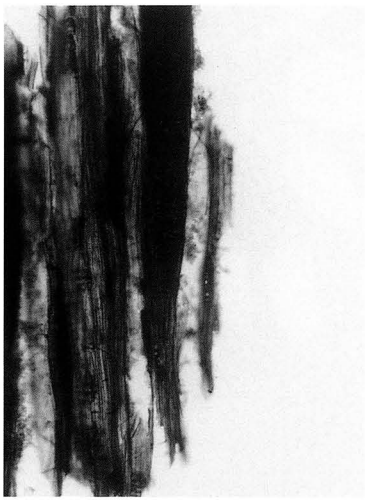
板目面　50倍

No.227　柱　エノキ



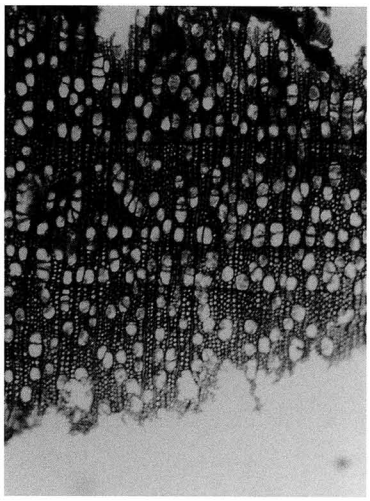
木口面　30倍

柾目面　100倍

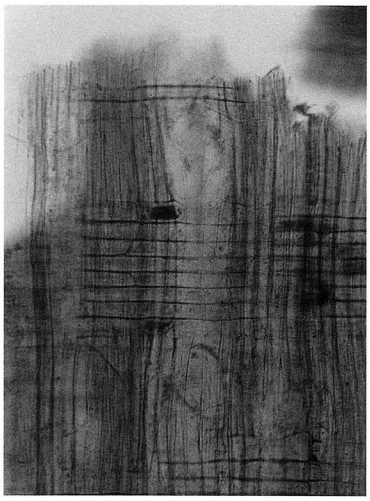


板目面　50倍

No.228　漆器椀　ブナ



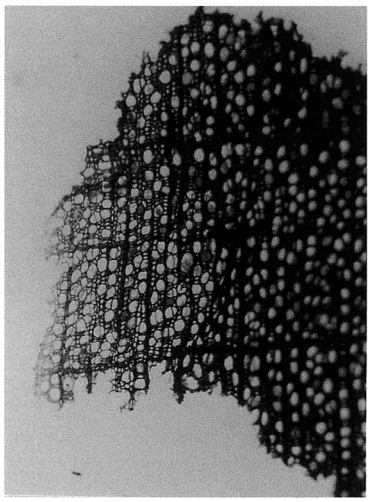
木口面　30倍



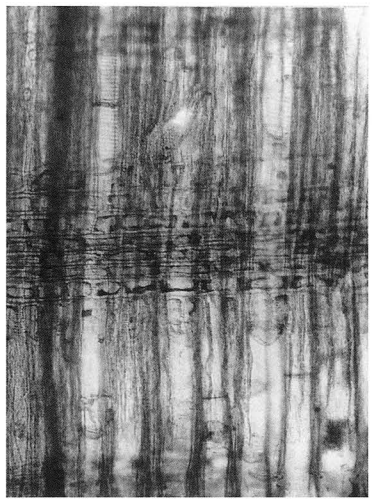
柾目面　100倍

板目面　50倍

No.229　漆器椀　トチノキ



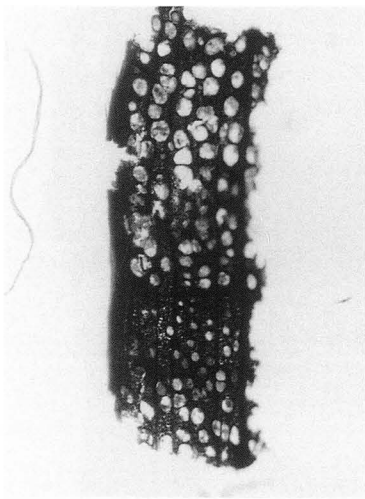
木口面　30倍



柾目面　100倍

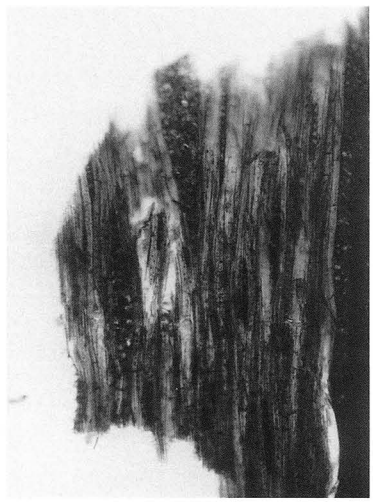
板目面　50倍

No.230　下駄　ヒサカキ



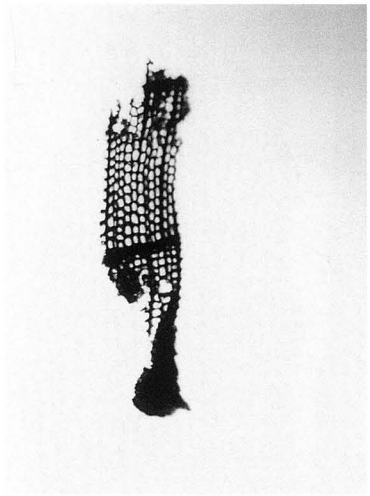
木口面　30倍

柾目面　100倍

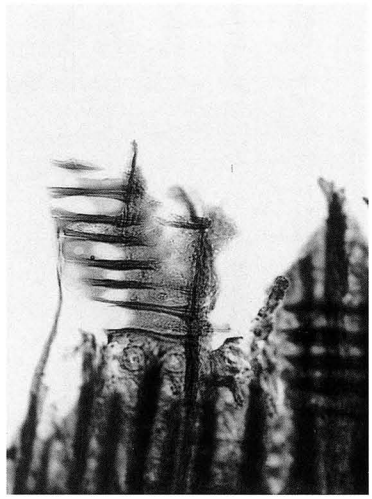


板目面　50倍

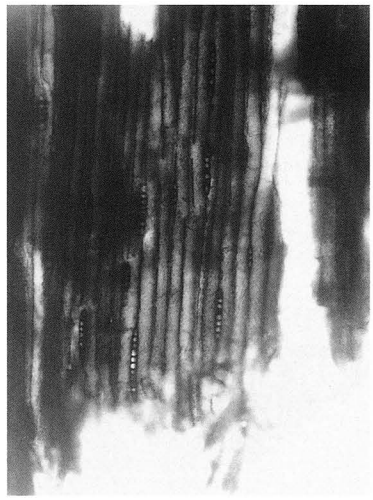
No.231　漆器椀　ブナ



木口面　30倍

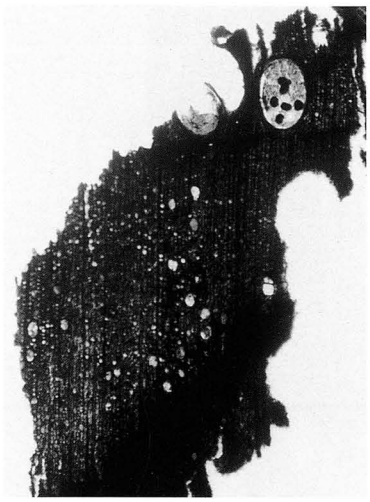


柾目面　200倍

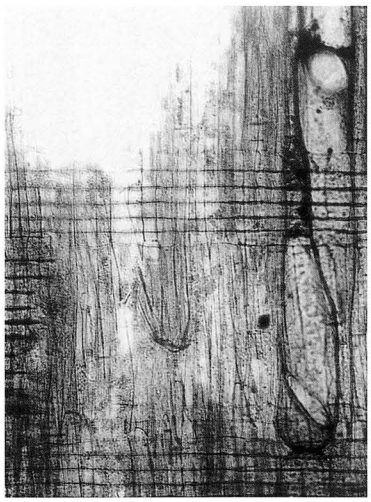


板目面　50倍

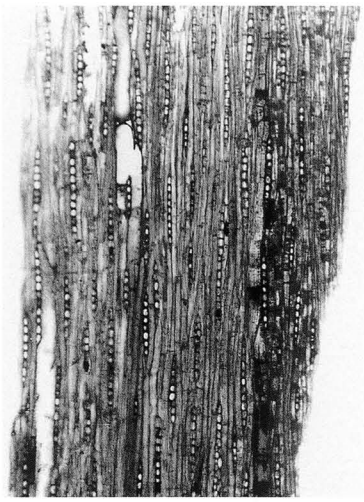
No.232　板状　ヒノキ



木口面　30倍

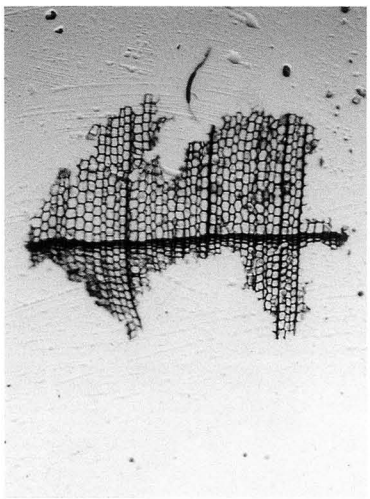


柾目面　100倍

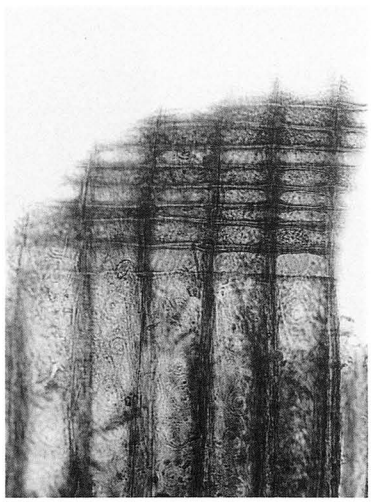


板目面　50倍

No.233　柱　クリ



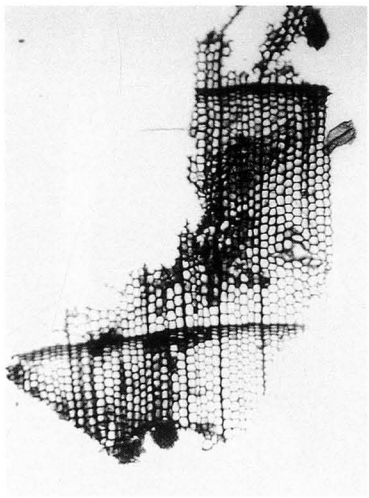
木口面　30倍



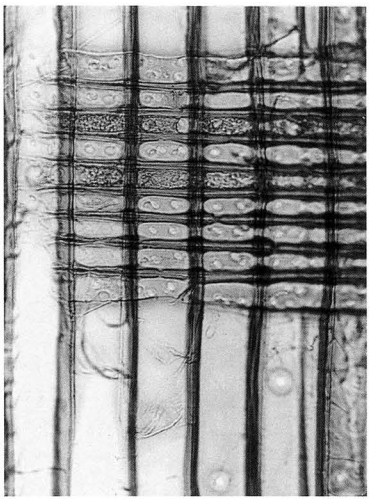
柾目面　200倍

板目面　50倍

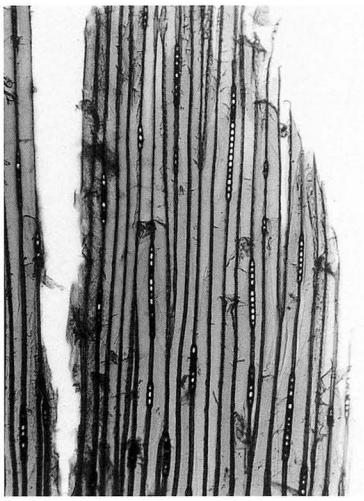
No.234　板状　ヒノキ



木口面　30倍

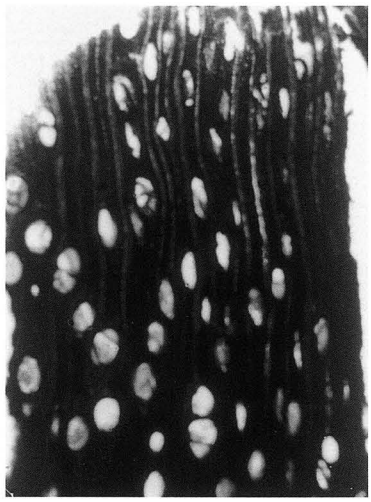


柾目面　200倍



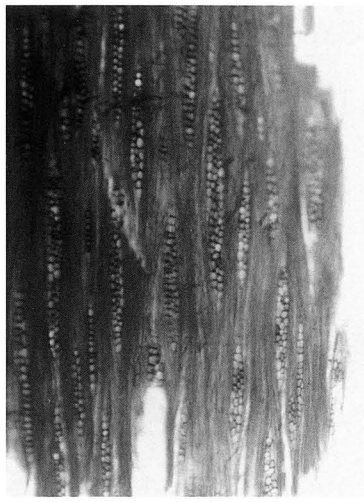
板目面　50倍

No.235　板状　ヒノキ



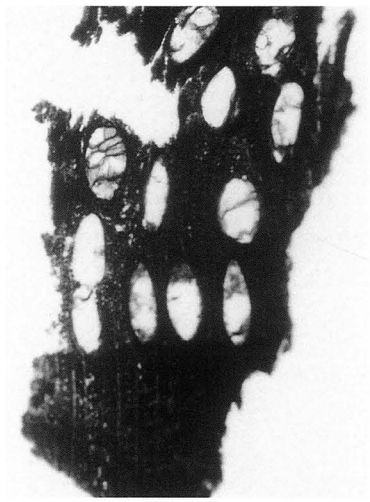
木口面　30倍

柾目面　100倍

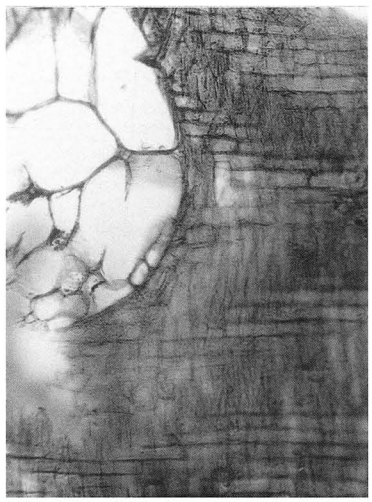


板目面　50倍

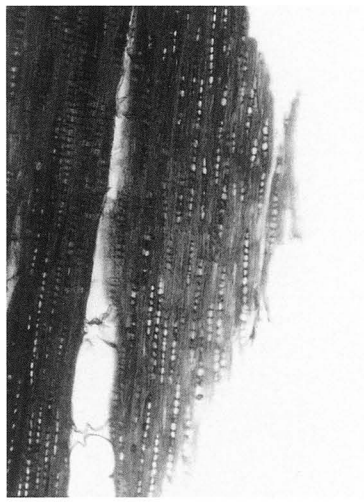
No.236　柱　ウルシ科ヌルデ？



木口面　30倍

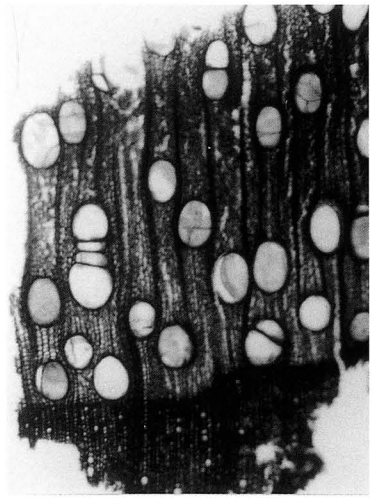


柾目面　100倍

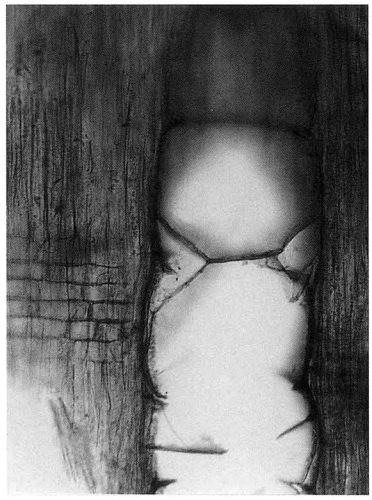


板目面　50倍

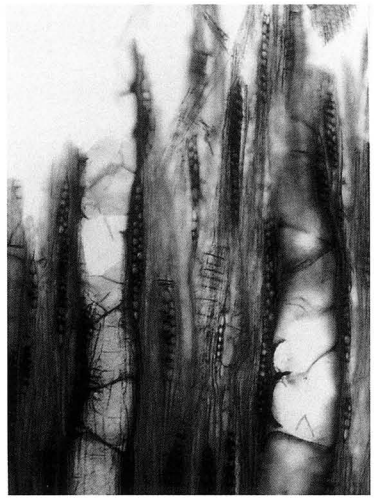
No.237　柱　クリ



木口面　30倍

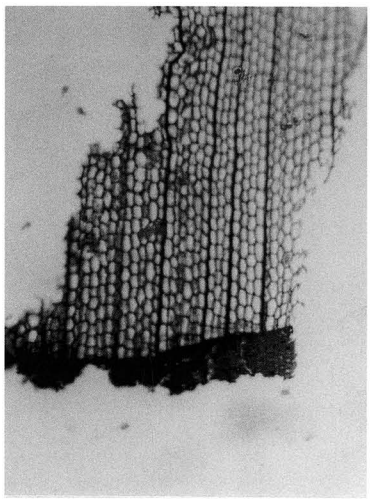


柾目面　100倍

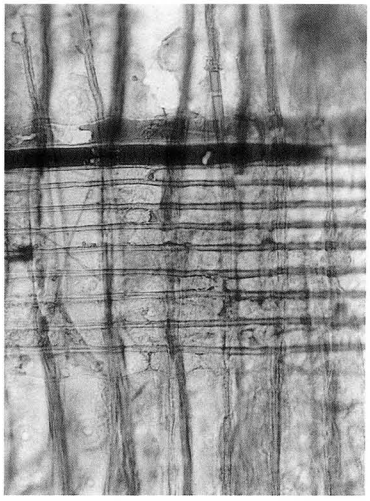


板目面　50倍

No.238　柱　ムクロジ



木口面　30倍



柾目面　200倍

板目面　50倍

No. 239　柱　スギ

第Ⅴ章　結　語

中名Ⅰ・Ⅴ遺跡では古代・中世～近世の長期に渡り、当該地域が人々の居住や生産の場であったことが明らかとなった。今回報告した調査区域の北側には中名Ⅴ・中名Ⅵ遺跡が続く。西側には道場Ⅰ・Ⅱ遺跡、東側は中名Ⅱ・持田Ⅰ遺跡がある。こうした周辺遺跡の様相も踏まえ、遺構や遺物、集落の様相をとらえていく必要があろう。しかし、今後報告される部分も多く、現時点では調査区域内における遺構変遷を主に示しておきたい。

1　古代

調査区域内では７世紀代の遺物は須恵器が１点あるのみで、８～10世紀前半の出土遺物がほとんどを占める。遺構の多くもこうした時期幅の中で形成されていったと考えられる。各遺構からの出土遺物、遺構の重複関係や配置を基にして、建物を中心とした遺構の変遷を考えた。

Ⅰ期〔ＳＩ06・09・10〕

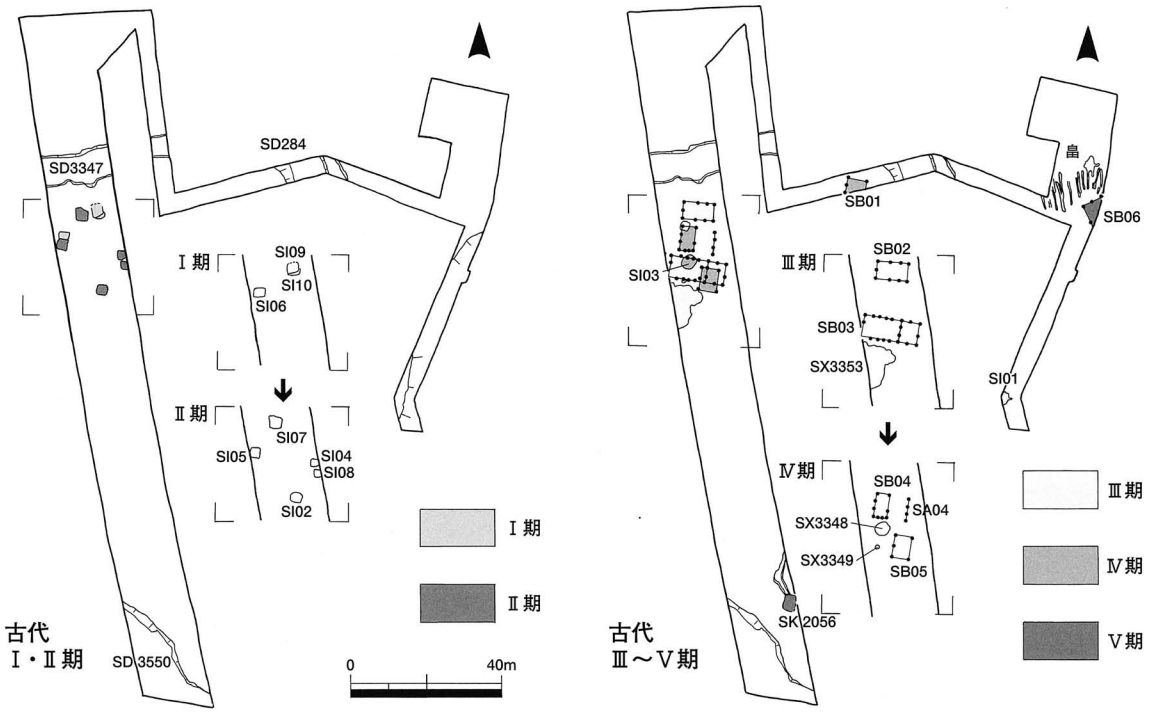
Ｂ４地区北側で礫層を避けて竪穴建物が３棟構築される。これら３棟からは内外面ハケメ調整の煮炊具が出土する。共伴する須恵器やロクロ成形の土師器甕から８世紀前半としておく。建物群の北側にはＳＤ3347、Ｂ４Ｓ地区の南端には近世まで続くＳＤ3550の自然流路が存在する。

Ⅱ期〔ＳＩ02・04・05・07・08〕

Ⅲ期〔東西棟の掘立柱建物ＳＢ02・03、集石遺構ＳＸ3353〕

Ⅳ期〔南北棟の掘立柱建物ＳＢ01・04・05、柵列ＳＡ04、集石遺構ＳＸ3348・3349〕

Ⅱ～Ⅳ期は８世紀中頃から９世紀前半の時期幅の中で変遷する。遺構の切り合いから、ＳＩ06＜ＳＩ05、ＳＩ07・09・10＜ＳＢ02、ＳＢ03＜ＳＸ3348・3349となる。さらに、ＳＸ3348の成因はＳＢ04・ＳＡ04の構築による可能性が高く、ＳＢ03＜ＳＢ04になる。加えて、ＳＸ3353はＳＢ03構築時に礫を片づけた結果として出来たと考えられ、ＳＢ03とＳＸ3353は併存していたことになる。また、主軸方向が異なる掘立柱建物は近接しており、同時併存とは考えにくく、主軸方位を同じくする建物が



第196図　古代遺構変遷図

併存した可能性が残る。これらから、竪穴建物から掘立柱建物へと変化する、Ⅱ～Ⅳ期の変遷を考えた。ただし、Ⅱ～Ⅲ期では、掘立柱建物＋竪穴建物（ＳＢ03＋ＳＩ05・07）の段階があり、その後、掘立柱建物２棟（ＳＢ02・03）と変遷したとも想定できる。

Ⅴ期〔ＳＩ01・03、ＳＫ2056、ＳＢ06、畠〕

ＳＩ03は９世紀前半で、Ⅳ期のＳＢ04より後出する。ＳＩ01は須恵器杯の形態や、タタキ痕が残る土師器甕から９世紀中頃まで時期が下がる。ＳＢ06と隣接する畠は、周辺の包含層中からロクロ成形の土師器椀の出土が多く、10世紀前半頃としておきたい。調査区内で見る限り、Ⅴ期の建物は単独で存在している。調査区北側では自然流路や包含層から９世紀後半以降の遺物が多く出土しており、Ⅴ期では建物群が形成される居住域が調査区域外へ移動した可能性もある。

2　中世～近世

掘立柱建物の柱穴から出土遺物はいくつか確認されるものの、破片資料のみである。意図的な埋納による遺物はなく、柱穴出土の遺物のみから建物時期を判断することは難しい。そのため、建物以外にも出土遺物のある溝・井戸・土坑等の年代観や、遺構の重複関係を基にして変遷を考えた。

Ⅰ期〔12世紀後半～13世紀前半〕：Ｂ３地区で、礎石建物ＳＢ10とＳＡ07、掘立柱建物ＳＢ11、ＳＫ1104がある。建物の東側は砂層が堆積し埋没した中世以前の谷部分で、南北方向に溝ＳＤ1900～1903が走る。Ｂ３地区の西半分にも同時期の遺構が存在する可能性はあるが、復元工事の影響深度の関係で未調査となる。ただし、礫層まで掘削し、調査したＢ４・Ｂ４Ｓ地区では当該期の遺構は確認されないため、西側にはあまり広がらない範囲で遺構が形成されたと思われる。また、調査区域西側のＡ２・Ｃ地区では、当該期から15世紀後半頃までの遺構は形成されなかった。基本層序では礫層上から砂層の堆積があり、低湿な状態が長く続いたと思われる。この他にＢ１地区でＳＢ09・08、ＳＡ06がある。ＳＤ2172はこの時期から流路を変えつつ存続していく。当期では流路ｃを考えておく。ＳＤ3550は古代から存続している。ＳＤ1900・1901やＳＫ1104等の出土遺物から、12世紀後半～13世紀前半を考えておく。

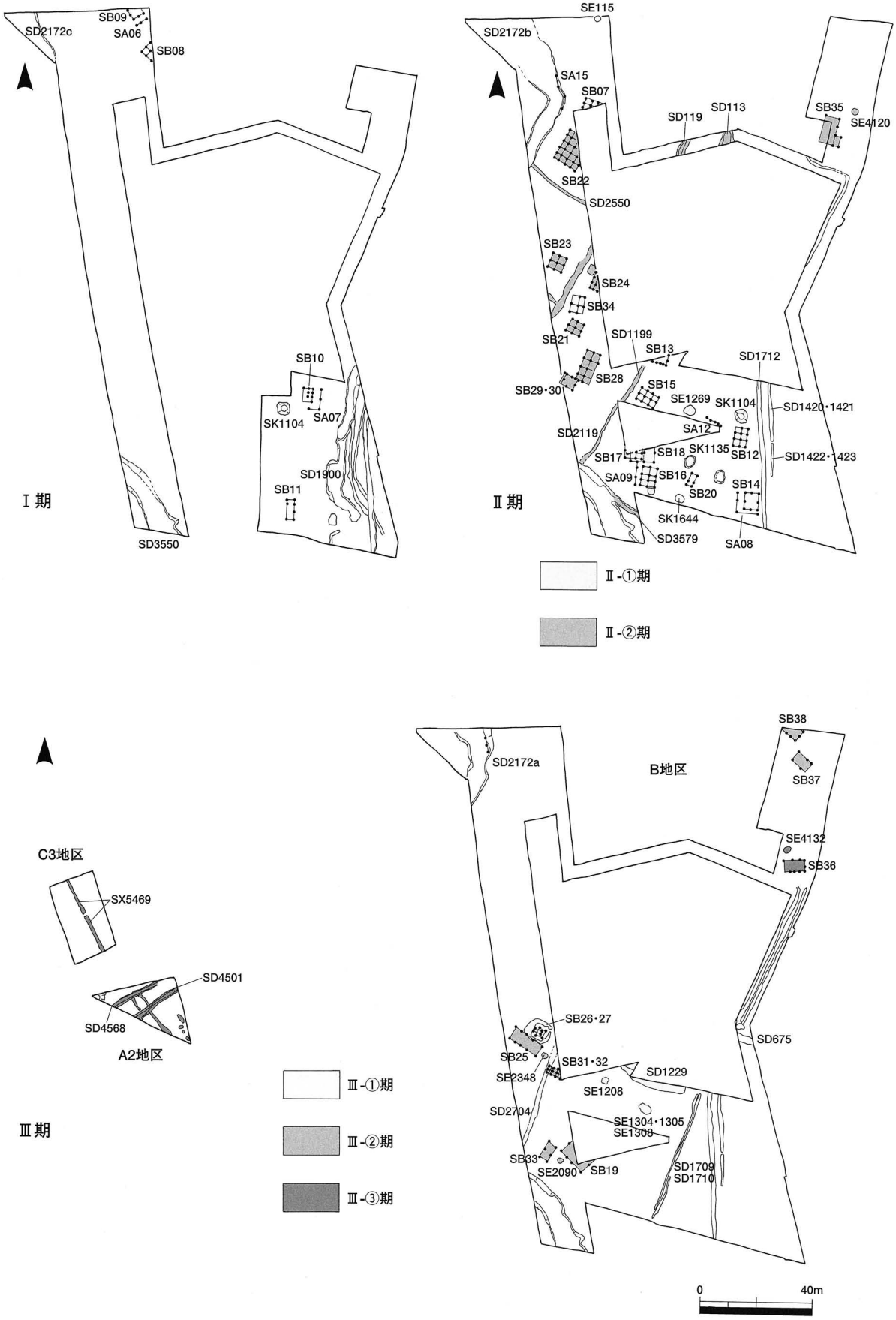
Ⅱ期〔13世紀〕：Ｂ地区全体で遺構が確認され、二つの小期に分けられる。

①：Ⅰ期の建物と近い主軸方位、もしくはそれに直交する方位を示す建物ＳＢ12～14・16～18からなる。他に柵列ＳＡ08・09・13、木組井戸ＳＥ1269、Ⅰ期から継続するＳＫ1104、Ⅰ期の礎石建物ＳＢ10を破壊して作られるＳＤ1712がある。ＳＤ1712に平行するＳＤ1420～1422との間は道と思われ、Ⅴ期まで継続する。Ｂ２地区水路部分の溝群はこの段階から掘削され、何度か掘り直しが行われつつ存続する。これらの遺構はⅠ期より後出するが、13世紀前半代になると思われる。

②：ＳＤ113・119・1199・2119・2948・2550・3579を区画溝とする。掘立柱建物はＳＢ15・20～24・28～30・35で主軸方位を区画溝と平行、もしくは直交させる。ＳＤ2172は流路ｂとし、東肩にはＳＡ15により護岸がなされる。ＳＢ22はＳＤ2172ｂに近接し、流路に沿った主軸方向となる。ＳＢ22の南側の区画となるＳＤ2550はＳＤ2172ｂに直交するような配置となる。自然流路を生かしつつ、溝とともに区画を作る。ＳＢ35には一部を石組で補強した木組井戸ＳＥ4120が伴う。13世紀後半を中心とする時期を考えておく。

Ⅲ期〔14～15世紀〕：三つの小期に分けられる。

①：Ⅱ－②期の区画溝に対して、やや西に角度を変えたＳＤ1229・1709・1710・2704により区画される。これらの溝は出土遺物から、15世紀前半には埋没していると思われる。区画内の石組井戸ＳＥ1208・1304・1305・1308はこの段階に位置づけておく。建物が明らかでないが、東西約50m、南北約



第197図　中世～近世遺構変遷図（1）

45mの範囲が区画され、その内側に石組井戸も作られる。14世紀代には居住域として利用されていたと思われる。ＳＤ2371は底部出土の遺物から同様の時期と思われ、ＳＤ2371による区画内のＳＢ26・27も同時期となる。特別に区画された仏堂のような存在と考えられる。

②：Ⅲ－①期の区画溝埋没後に作られたＳＢ31・32がある。他にＳＢ19・33、Ｂ６地区のＳＢ37・38となる。建物は側柱と構造を変え、溝による区画は確認されない。15世紀前半となる。

③：Ｂ６地区ＳＢ36・ＳＥ4132、Ｂ３地区ＳＫ1159、Ｃ地区の石列ＳＸ5469、Ａ２地区ＳＤ4501・4568が当てはまる。Ａ２・Ｃ地区でも遺構の形成が始まる。Ａ２地区では墓壙、Ｃ地区では石列が検出され、これらの調査区やその周辺は墓域や宗教的な施設があったことが考えられる。出土遺物から15世紀後半となる。

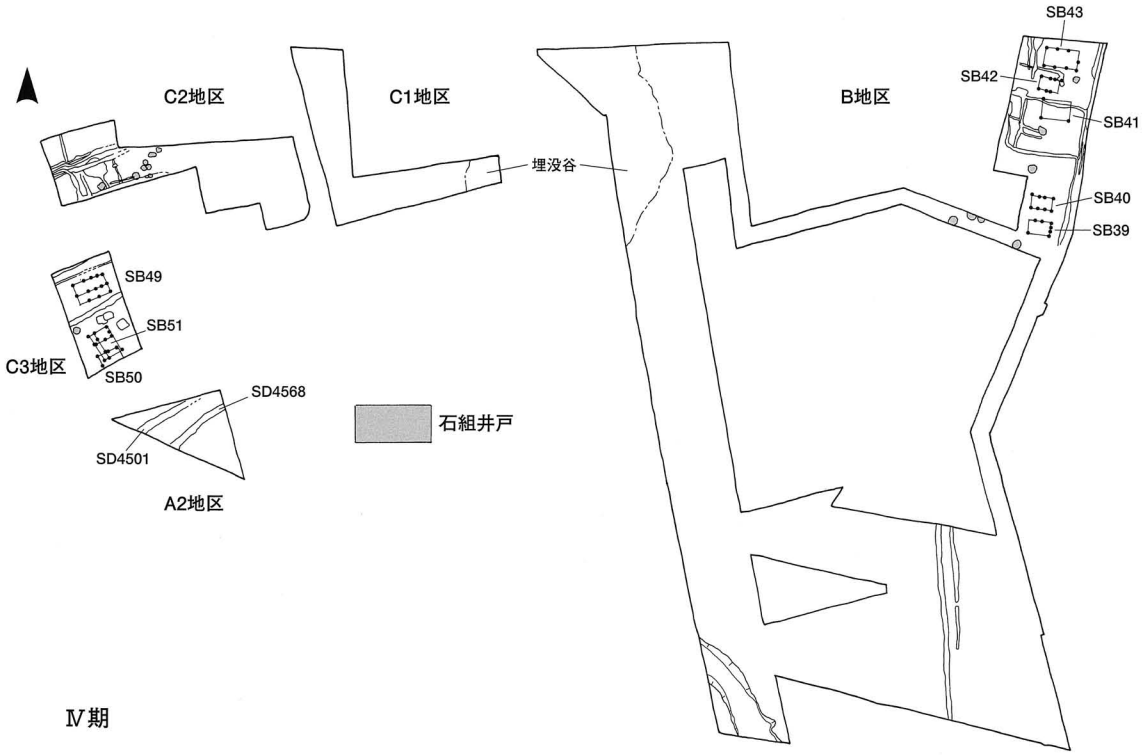
Ⅳ期〔16世紀〕：遺構の分布はＢ６地区・Ａ２地区・Ｃ地区を主体とする。Ｂ６地区とＢ２地区の一部では、側柱の掘立柱建物ＳＢ39～43と石組井戸７基がある。建物は溝により区画されている。溝と建物の重複があり、少なくとも１度は建物・区画の変更があったと思われる。Ａ２・Ｃ地区では東西方向の溝で区画される。Ａ２地区では、Ⅲ－③期に作られた溝が徐々に埋没していく途中である。Ｃ３地区では区画内にＳＢ49～51があり、石組井戸ＳＥ5301・5223が付属する。出土遺物から区画溝はＣ３地区で16世紀後半、Ｃ２地区で17世紀初頭にはほとんど埋没している。

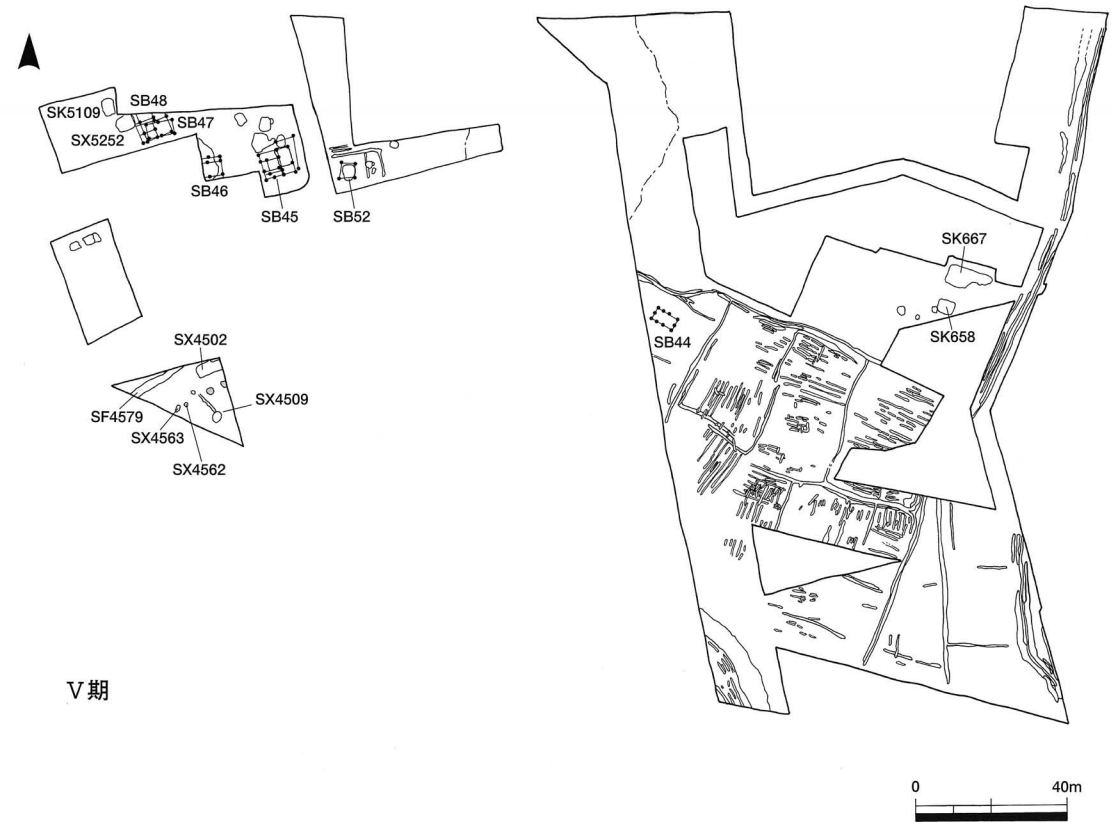
Ⅴ期〔17世紀〕：Ｂ２・３・４・４Ｓ地区の範囲に畠が作られ、近接して掘立柱建物ＳＢ44や土台建物の一部と思われるＳＫ658がある。畠を区画する溝にはⅡ期～Ⅳ期の区画溝や、調査前の現況田の地割りと共通する部分も存在している。中世の地割りから、近世～現代の地割りへと変化する過渡的な状況を示している。Ａ２地区ではＳＸ4502が土台建物の基礎となり、石組井戸ＳＥ4503・4577や排水施設ＳＸ4509が確認される。土台建物基礎部分の出土遺物から、17世紀後半と思われる。埋没したＳＤ4501の北側に沿って道路状遺構ＳＦ4579があり、同じく埋没したＳＤ4568内には墓壙ＳＸ4562・4563が作られている。Ｃ地区ではＳＢ45～48が確認される。建物の前後関係が不明であるが、少なくとも２時期の変遷がある。建物が切る井戸や土坑からは越中瀬戸や肥前陶磁器が出土しており、建物の構築時期は17世紀初頭以降と考えておく。

3　小結

中名Ⅰ・Ⅴ遺跡は８世紀から遺構の形成が始まる。周辺の遺跡では、中名Ⅵ遺跡に７世紀代の竪穴建物、やや離れた砂子田Ⅰ遺跡では６世紀代に遡る遺物が確認されている。今回報告した遺構群に先行する遺構・遺物が周辺の遺跡から発見されており、徐々に扇状地上への開発が進んできた様相が窺える。９世紀後半以降では中名Ⅱ遺跡や中名Ⅴ遺跡Ｄ２地区で遺構・遺物が確認される。この時期では点在した遺構分布を示し、８世紀代の重複した遺構のあり方とは異なる。集中・継続的な土地開発の後、維持管理を目的とした小集団の経営へ移行されたのだろうか。いずれにせよ、集落のあり方に変化が起きたと言えよう。

中世以降では、12世紀後半から17世紀までの遺構・遺物が確認されている。12世紀後半には礎石建物が確認され、惣堂のような役割が想定される。13～14世紀では、総柱の掘立柱建物を中心とした遺構は調査区南側の範囲に多く、溝による区画がなされていく。中世前半では区画溝による居住空間が創出され、掘立柱建物が作られていく様子が確認された。建物の規模は30㎡を主体とし、他に50㎡前後と100㎡程の建物が散見される。15世紀以降は側柱の掘立柱建物となる。また、仏堂と思われる建物や墓壙などの宗教的な施設・空間が設けられていく。建物は25㎡前後が主体で、最大でも約50㎡となる。中世前半から後半にかけて、建物の構造変化や規模縮小が認められた。16世紀後半～17世紀に





第198図　中世～近世遺構変遷図（2）

かけては、それまで居住域であった範囲が耕地へと変わる。また、建物は側柱で20㎡程の掘立柱建物の他に、建物の一部に石列の基礎を有する形態や、コの字状の石列を土台とする建物が認められる。中世後半から近世初頭にかけて、建物構造や利用する居住域が変化していく様相を追うことが出来た。

4　おわりに

今回、報告するに際し、発見された遺構や遺物に関する事実記載に重きを置いた。それは、先述したように、中名Ⅴ遺跡北側部分や中名Ⅵ遺跡、道場Ⅰ・Ⅱ遺跡といった周辺遺跡の報告がなされた段階で、今回報告した遺構群も含めた評価を行う必要があると考えたからである。そのため、遺構・遺物に対する十分な考察は行っていないままではあるが、今後の調査報告の中でその責務を果たしていきたいと思っている。

（青山　晃）

引用・参考文献

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』№2　日本貿易陶磁研究会

宇野隆夫　1989　「井戸考」『古代と中世の歴史と社会』　真陽社

越中瀬戸焼発祥400年記念顕彰会実行委員会　1988　『越中瀬戸発祥400年記念誌』

財団法人　富山県文化振興財団　1996　『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書（遺構編）』

財団法人　富山県文化振興財団　1996　『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書（遺物編）』

財団法人　富山県文化振興財団　1996　『梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告』

財団法人　富山県文化振興財団　1997　『埋蔵文化財調査概要－平成８年度－』

財団法人　富山県文化振興財団　1998　『埋蔵文化財調査概要－平成９年度－』

財団法人　富山県文化振興財団　1999　『埋蔵文化財調査概要－平成10年度－』

財団法人　富山県文化振興財団　2000　『埋蔵文化財調査概要－平成11年度－』

財団法人　富山県文化振興財団　2001　『埋蔵文化財調査概要－平成12年度－』

財団法人　富山県文化振興財団　1998　『紀要　富山考古学研究』創刊号

財団法人　富山県文化振興財団　2000　『紀要　富山考古学研究』第３号

財団法人　富山県文化振興財団　2003　『清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告』

佐賀県立九州陶磁文化館　1984　『国内出土の肥前陶磁』

福光町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター　1997　『富山県福光町梅原安丸Ⅳ遺跡』

藤澤良祐　1997　「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その流通と生産～』

婦中町史編纂委員会　1996　『婦中町史　通史編』

婦中町教育委員会　1999　「富山県婦中町県営公害防除特別土地改良事業に係わる埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書」

北陸中世土器研究会　1993　『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』

北陸中世土器研究会　1994　『中世北陸の寺院と墓地』

北陸中世土器研究会　1997　『中・近世の北陸』　桂書房

宮田進一　1988　「越中瀬戸の窯資料（１）」『大境』　第12号　富山考古学会

森田勉・横田賢二郎　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心に－」『九州歴史資料館研究論集』４　九州歴史資料館

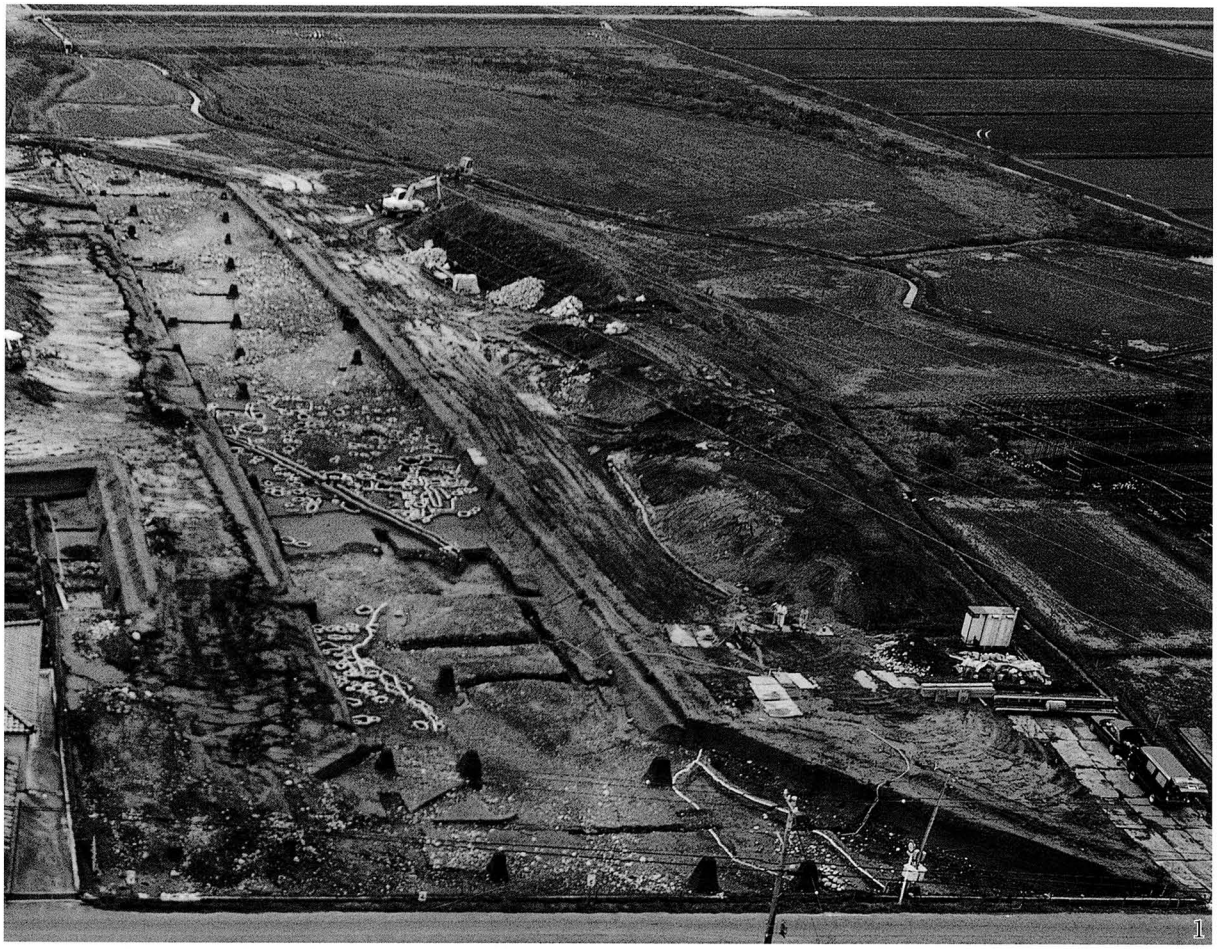
山本信夫　1988　「北宋期貿易陶磁器の編年－大宰府出土例を中心として－」『貿易陶磁研究』№8　日本貿易陶磁研究会

山本信夫ほか　1983　「大宰府条坊跡Ⅱ」『大宰府の文化財』７

吉岡康暢　1994　「珠洲陶器の編年的考察」『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

図版1
航空写真
（1961年撮影）

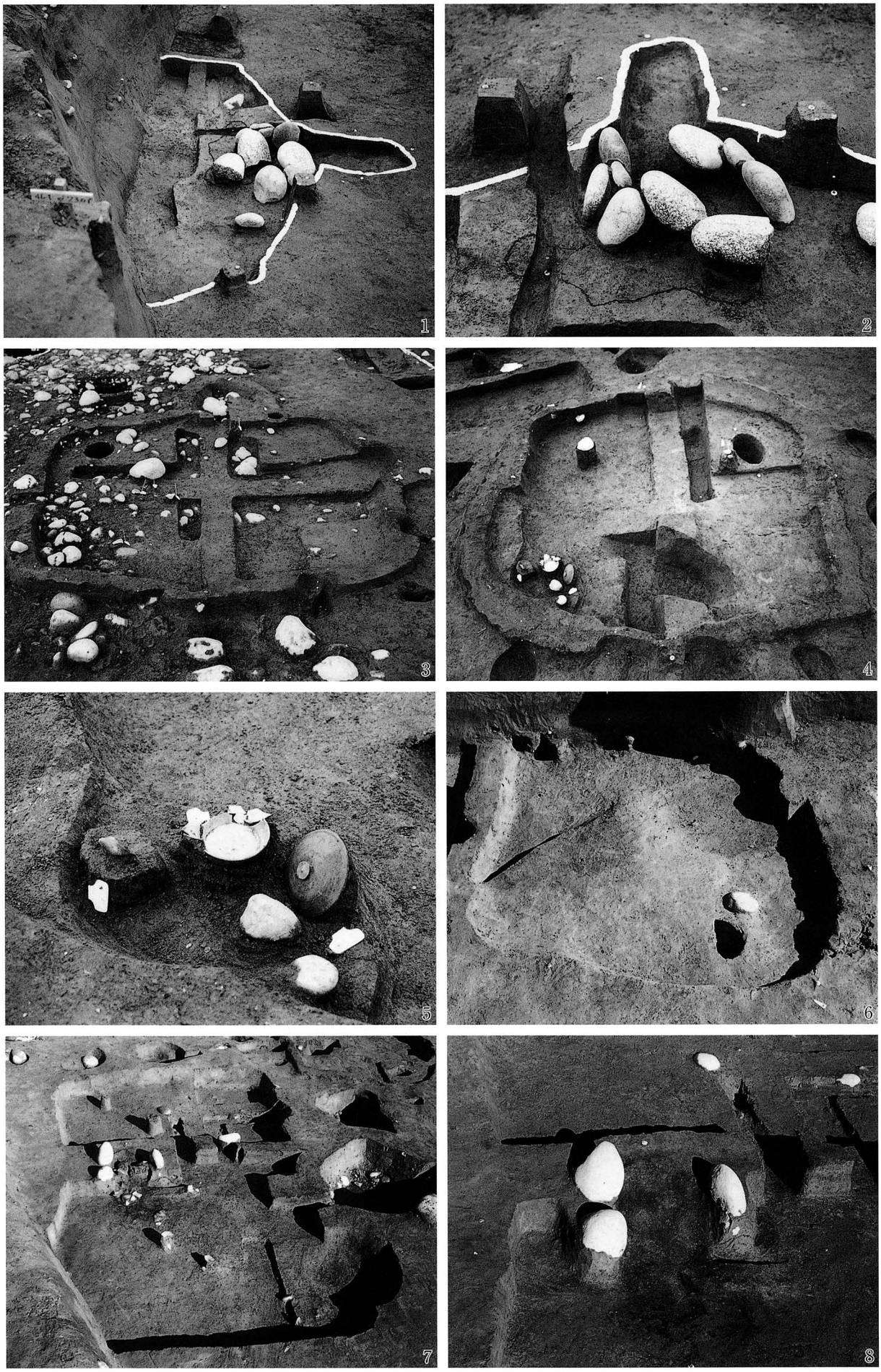
図版2
航空写真
(1975年撮影)



全景（古代）

1. B4地区　全景（北から）　2. B4地区北側（南東から）

図版４



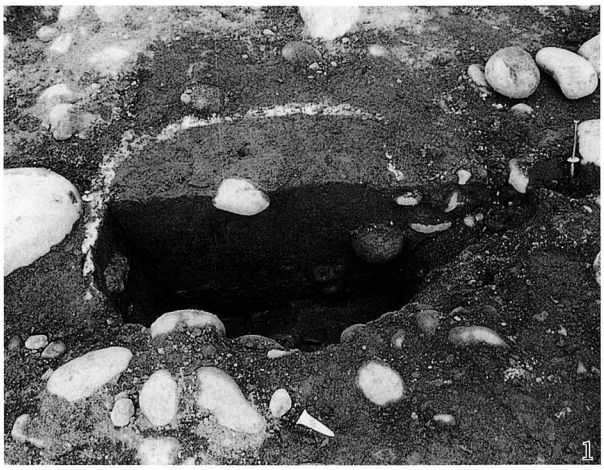
竪穴建物（古代）

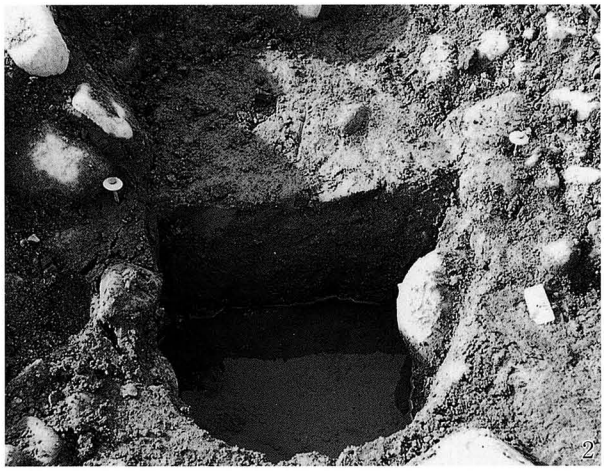
1. SI01（南から）　2. SI01竈（西から）　3. SI02（南から）　4. SI03（南から）
5. SI03 遺物出土状況（南から）　6. SI04（西から）　7. SI05・06（南から）　8. SI05竈（南から）

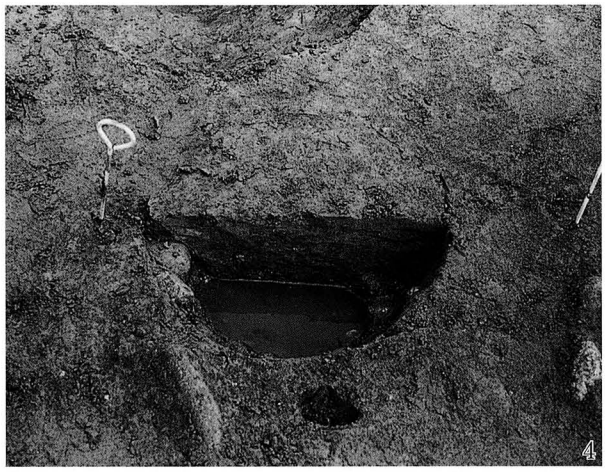
竪穴建物・掘立柱建物（古代）

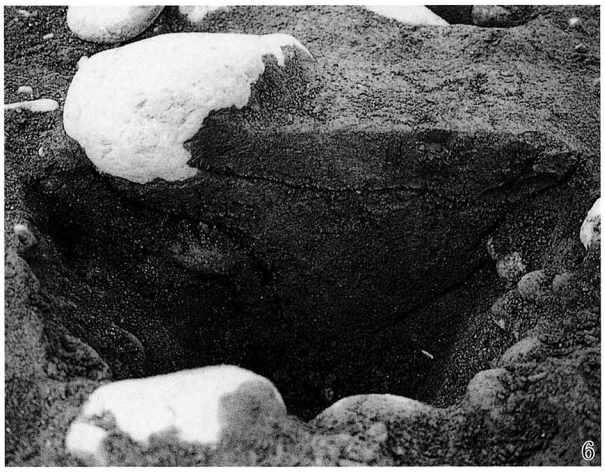
1. SI07（西から）　2. SI07竈（西から）　3. SI08（西から）　4. SI09（西から）
5. SB01（北から）　6. SB04（北東から）　7. SB03（東から）

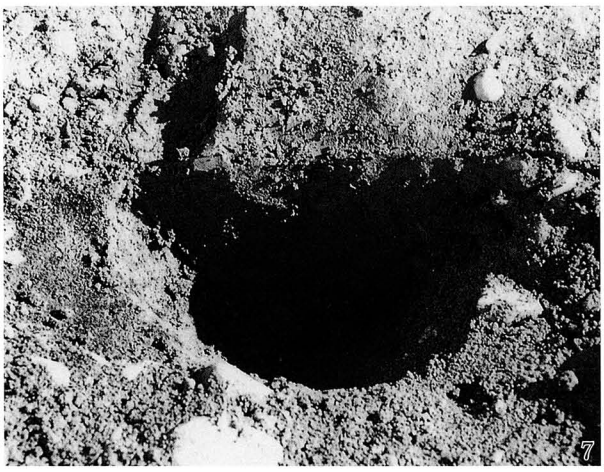
図版6





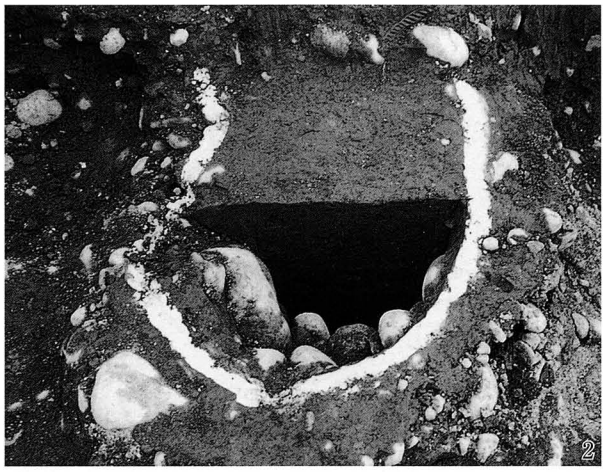


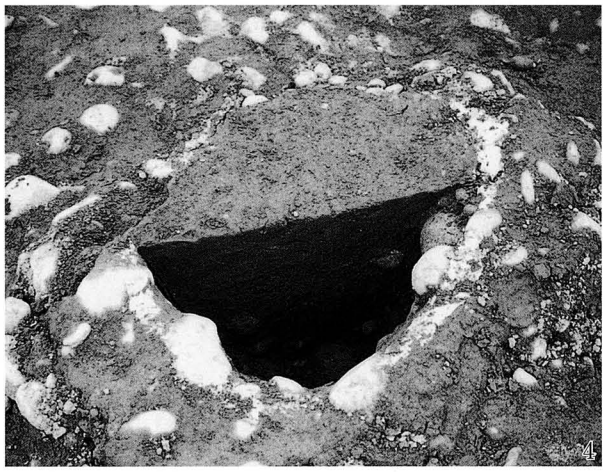


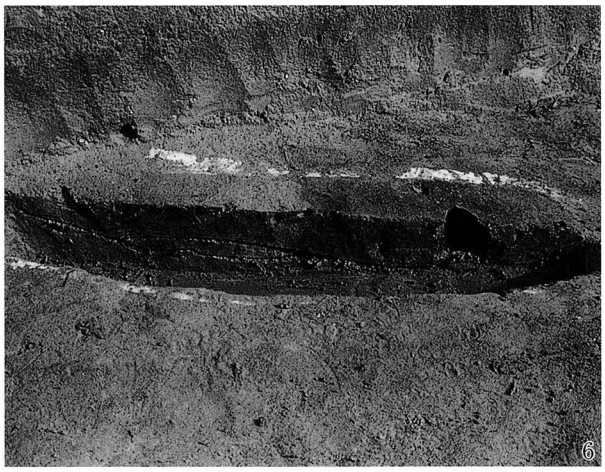


柱穴（古代）

SB03　1. SP3054（南から）　2. SP3309（東から）　3. SP3313（南から）　4. SP3334（南から）
SB04　5. SP3276（南から）　6. SP3278（南から）　7. SP3345（西から）　SB05　8. SP3280（南から）



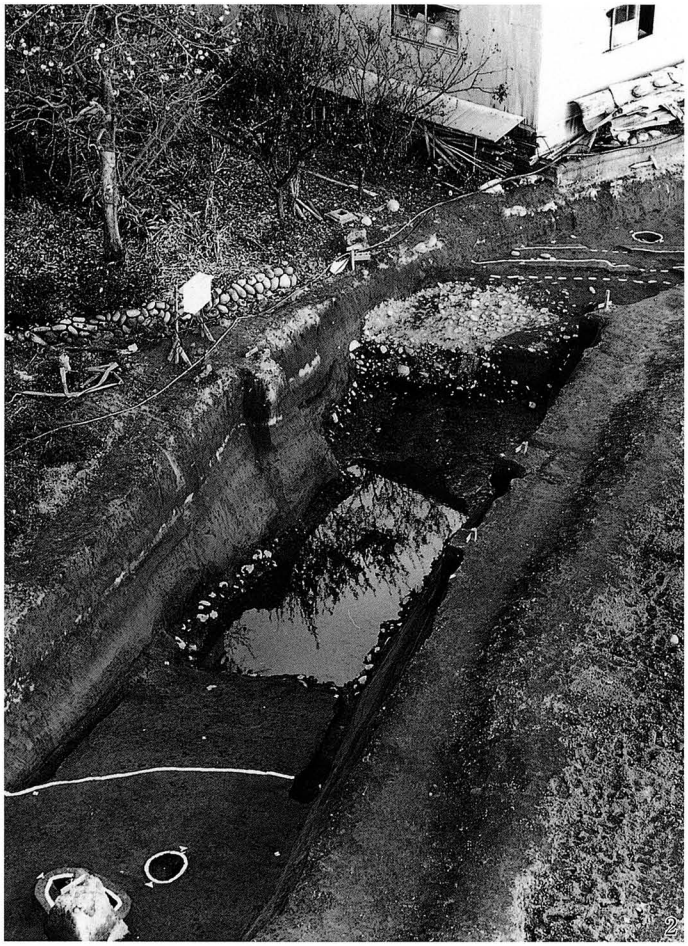


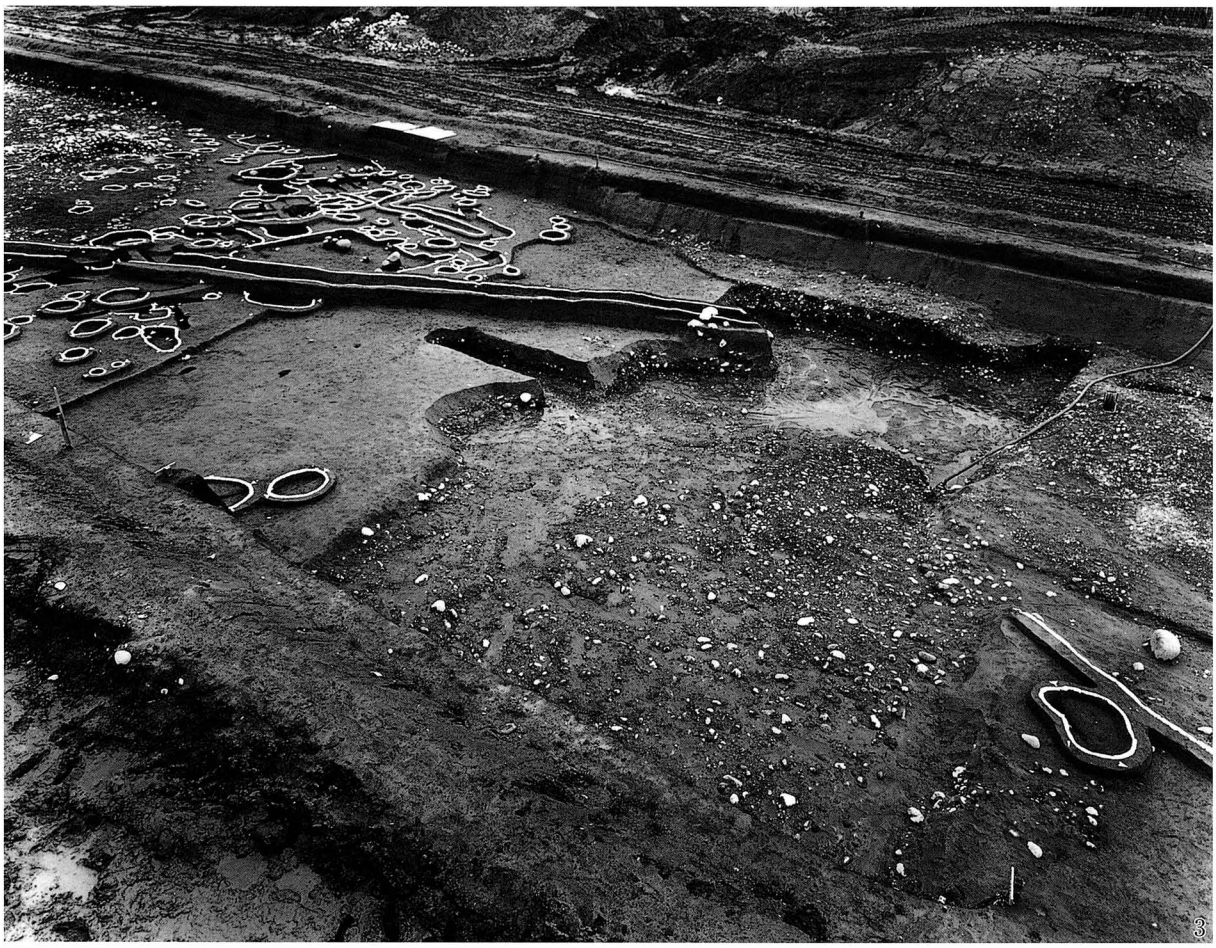


柵列・土坑（古代）

SA01　1. SP3249（南から）　2. SP3259（西から）　SA02　3. SP3233（南から）　4. SP3258（南から）
5. SK3201（西から）　6. SK3202（西から）　7. SK3283（南から）　8. SK3346（南から）

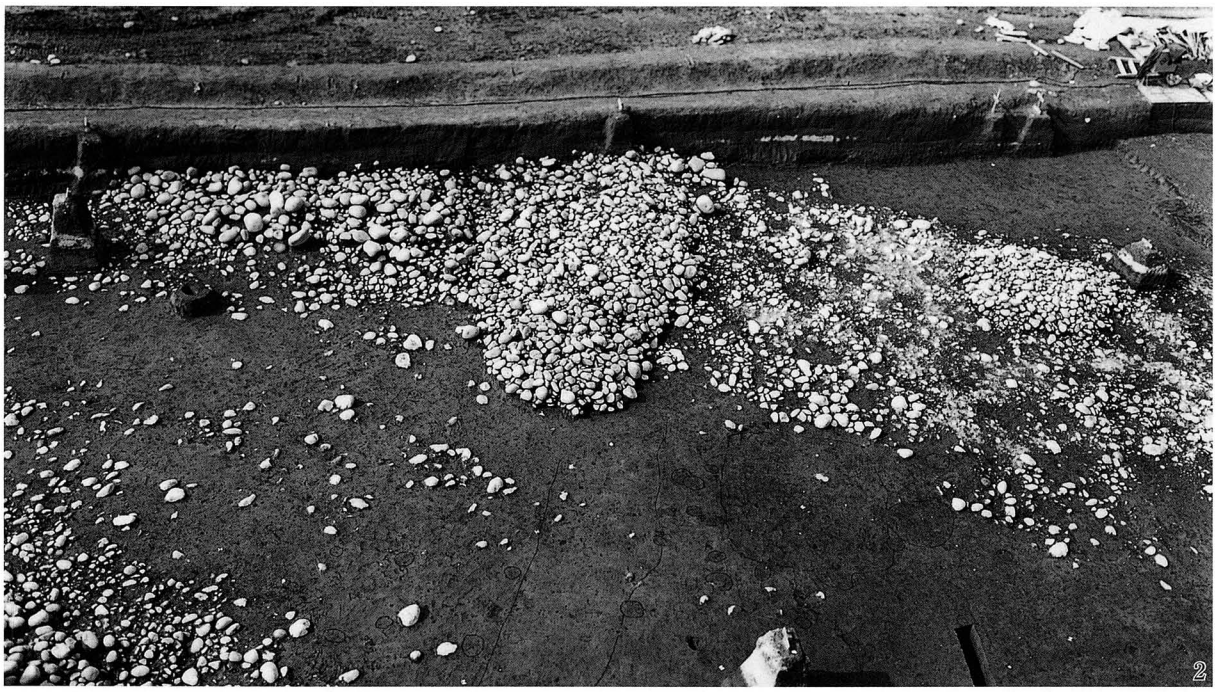
図版8

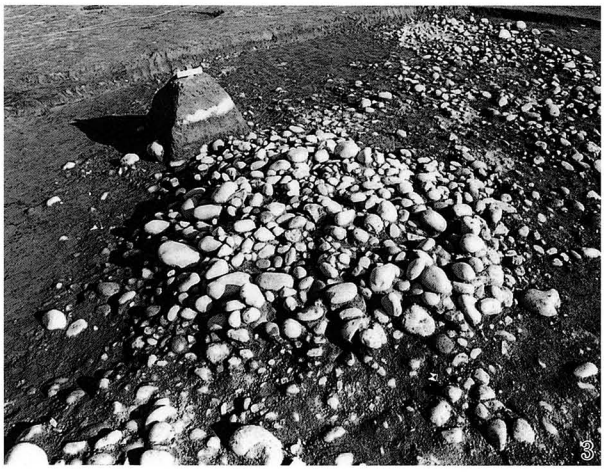




溝（古代）

1. B1地区北側（南から）　2. SD284（西から）　3. SD3347（東から）

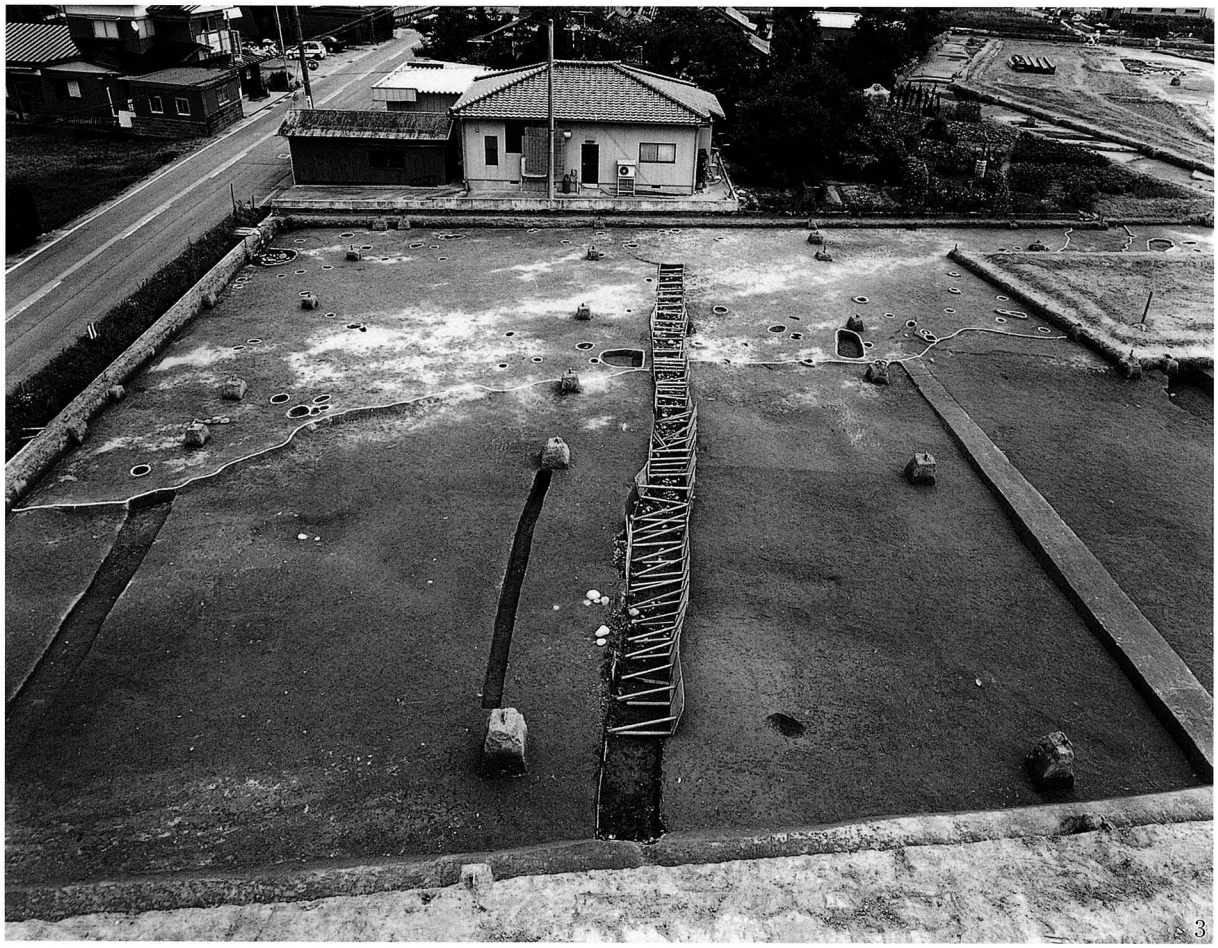




畠・集石遺構（古代）

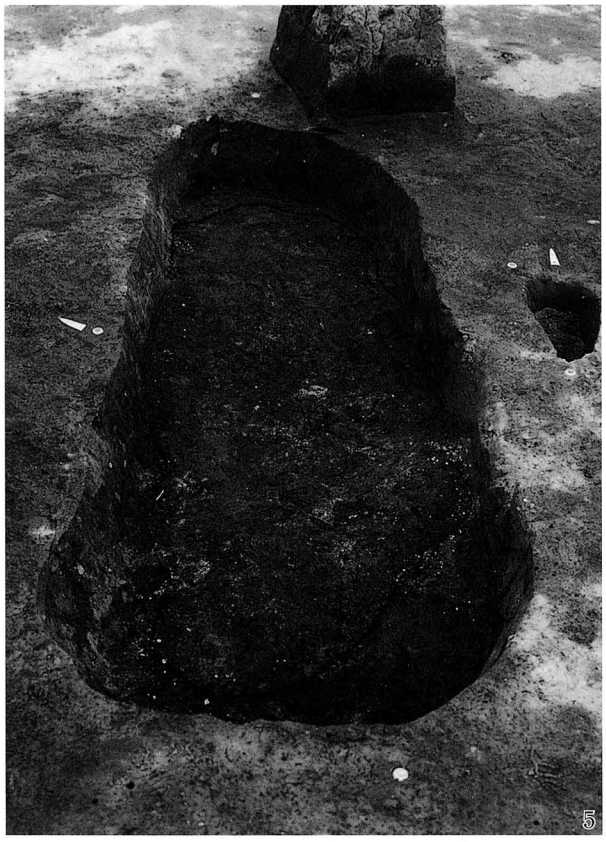
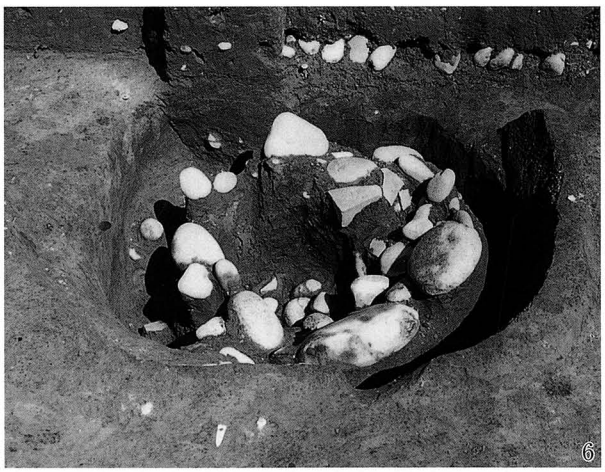
畠　1. B6地区（南から）　集石遺構　2. SX3353（東から）　3. SX3348（南西から）　4. SX3349（南から）

図版10



B1地区　全景（中世）

1. 調査区水路部分（南から）　2. 調査区水路部分（西から）　3. 全景（西から）

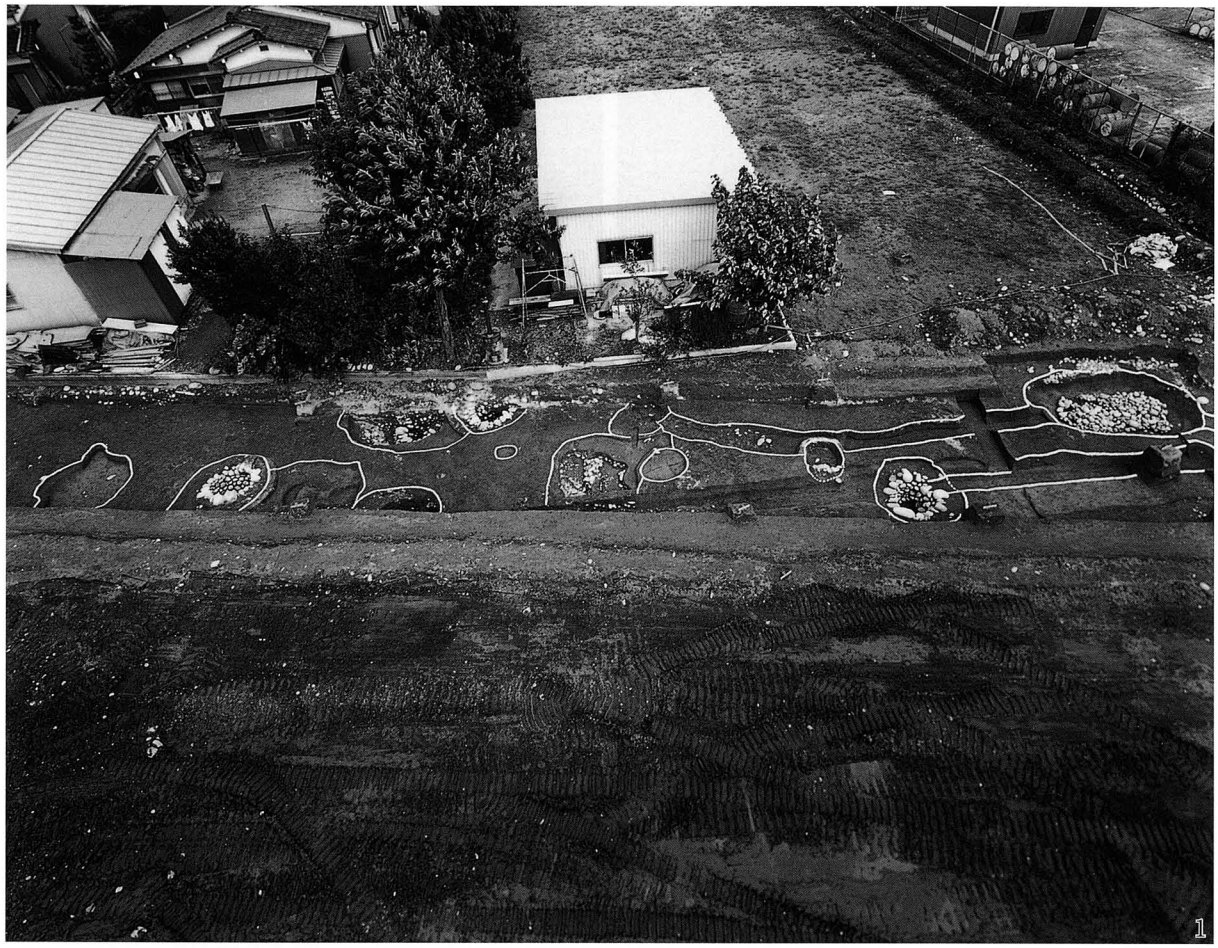
B1地区　堀立柱建物・土坑・井戸（中世）

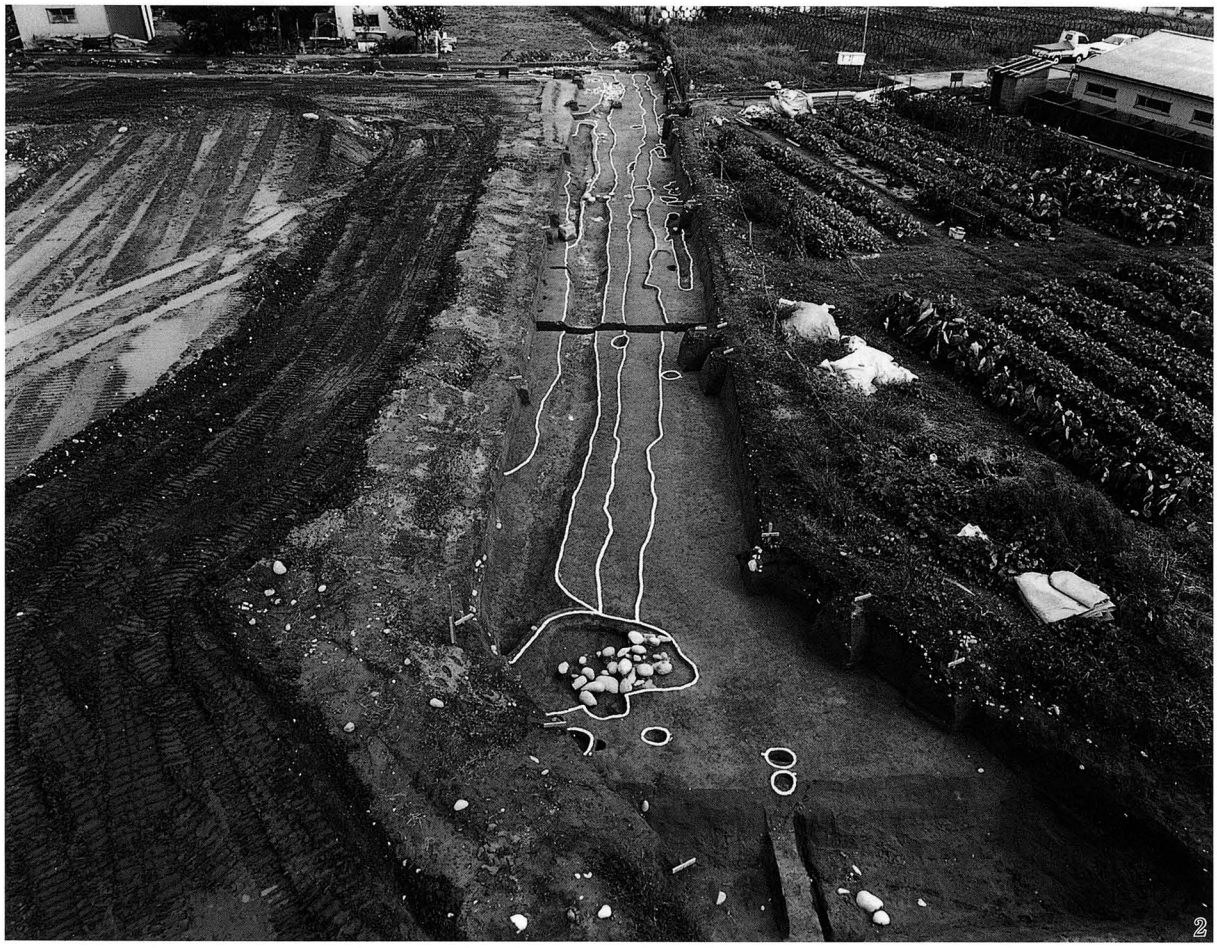
1. SB07（北西から）　2. SB08（北西から）　3. SB09（南から）　4. SK59（南から）
5. SK59（西から）　6. SE115 礫出土状況（南から）　7. SE115（南から）

図版12

B2地区　全景（中世）

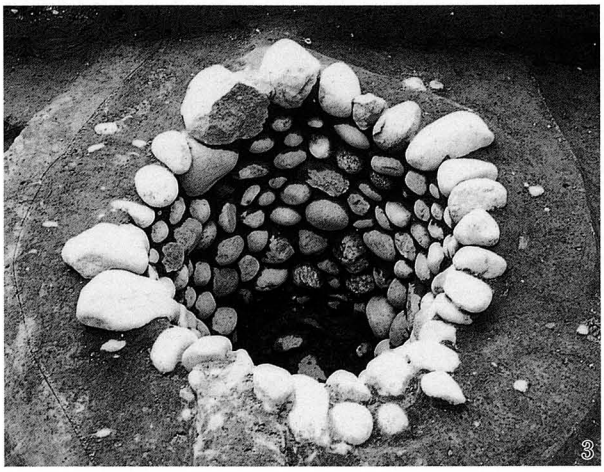
1. 調査区北部（東から）　2. 調査区南部（北から）

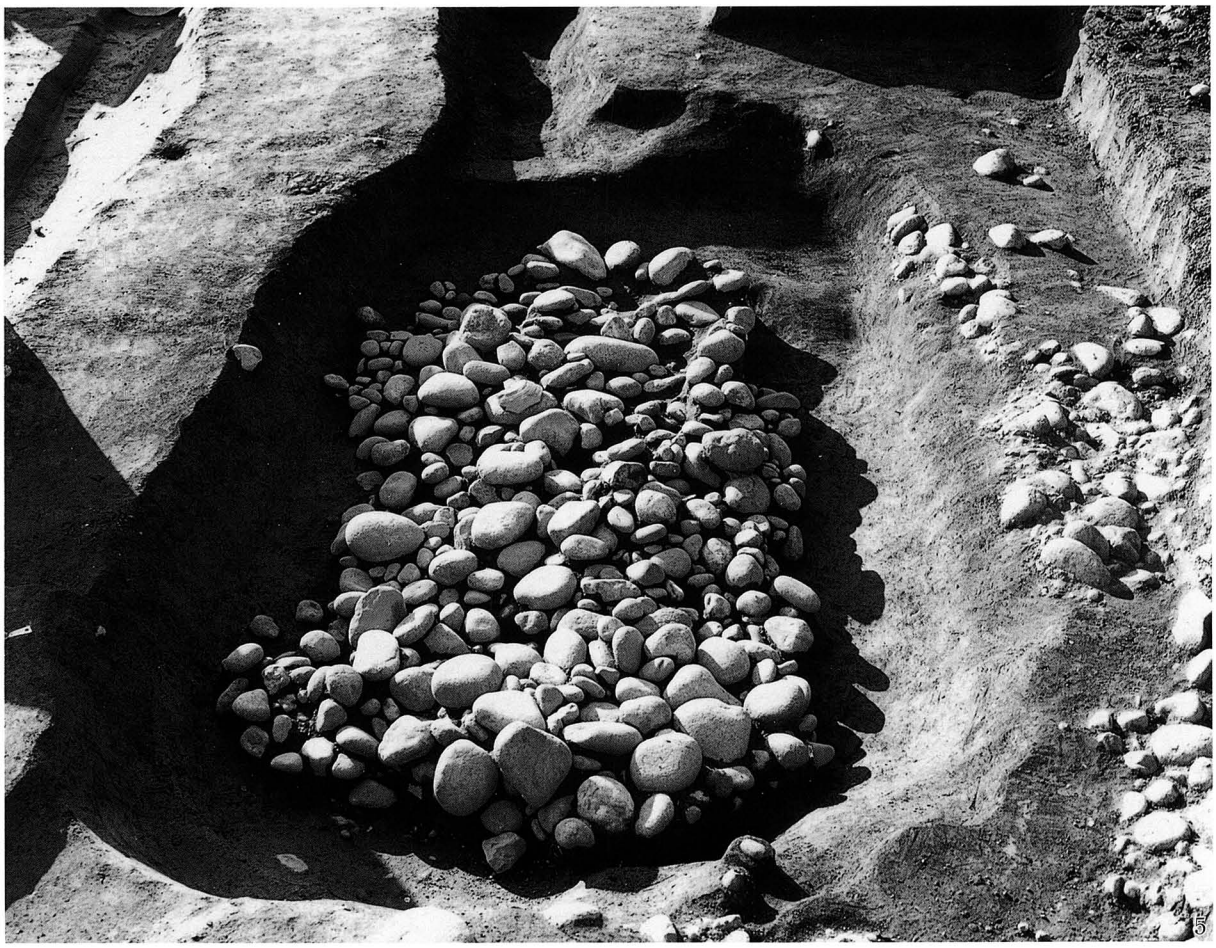




B2地区　全景（中世）

1. 調査区北部 井戸群（南から）　2. 全景（南から）





B2地区　井戸・土坑（中世）

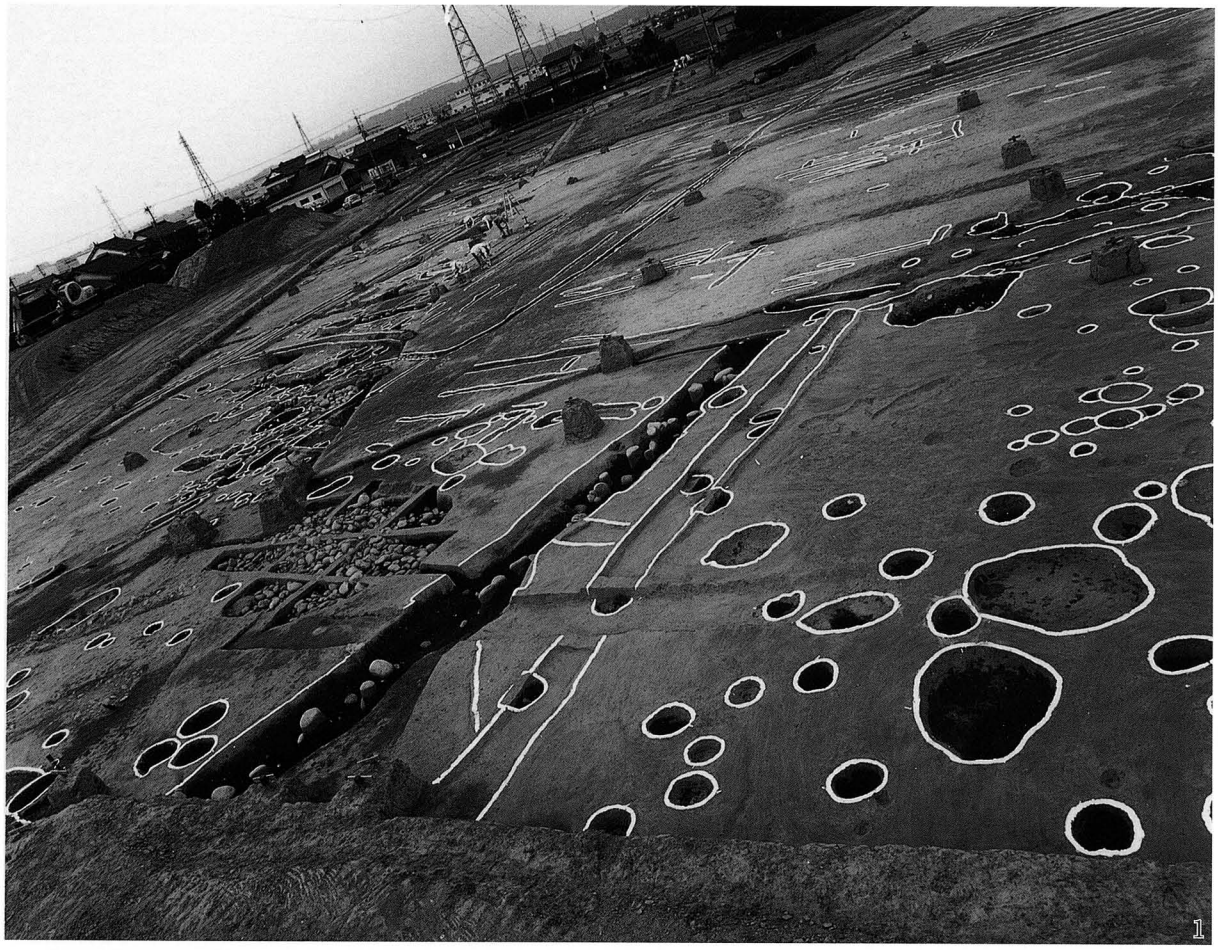
1. SE731（北から）　2. SE734・738（南から）　3. SE740（北から）　4. SK728（西から）
5. SK728 礫出土状況（東から）

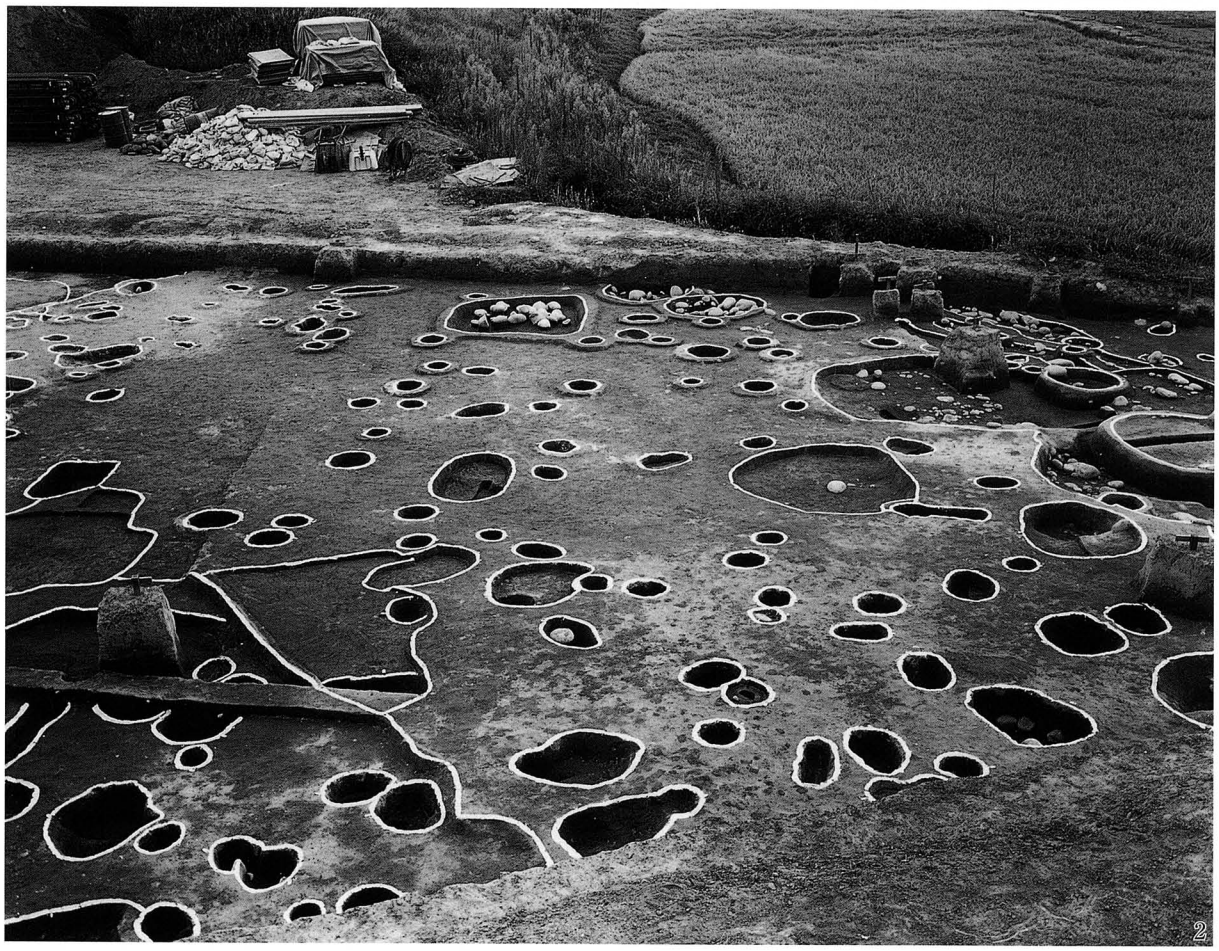
B3地区　全景・礎石建物（中世下層）

1. 全景（北から）　2. SB10（北から）

B3地区　全景・掘立柱建物（中世上層）

1. 全景（西から）　2. SB12（南から）





B3地区　掘立柱建物（中世上層）

1. SB15（南から）　2. SB16～18（北から）